

ふくしま SDGS

推進プラットフォーム 取組集 (令和5年度)



ふくしま応援!『ペコ太郎』



キビタン©福島県



～ もくじ ～

▶ ふくしま S D G s 推進プラットフォームについて…………… 5

▶ プラットフォーム 活動の経過…………… 6

▶ S D G s の取組応援メッセージ…………… 8

▼ プラットフォーム会員の皆様の取組集…………… 10～94

団体名（50音順）	所在地	主な取組	頁
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 福島支店	郡山市	S D G s 経営簡易診断サービスの実施	11
生活協同組合あいコープふくしま	郡山市	生産者交流会	12
公立大学法人 会津大学	会津若松市	プログラミング学習支援システム「AOJ」で情報教育格差の解消を目指す	13
会津坂下町	会津坂下町	S D G s による施策管理	14
愛twoランドみなみ	南会津町	遊休農地の有機農地転換事業	15
アサヒグループジャパン株式会社	東京都	水源地の森保全活動	16
イオン東北株式会社 福島事業部	福島市	にぎわい東北 地域がにぎわう循環型プロジェクト	17
石橋建設工業株式会社	本宮市	S D G s 推進モデル工事	18
猪苗代町立猪苗代中学校	猪苗代町	よみがえれ！猪苗代湖！！2023～猪中型資源循環サイクル～	19
医療創生大学・企画課	いわき市	地域公開講座 講演「作業することが健康に良い理由」	20
いわき市	いわき市	学校給食などからSDG s を考える取り組み	21
いわき市中央卸売市場協会	いわき市	市場内一斉清掃	22
おおたま村づくり株式会社	大玉村	「エシカル消費」で持続可能な社会をつくろう	23
一般社団法人 オープンデータラボ	福島市	自治体 S D G s イベントにおける講演	24
小名浜海陸運送株式会社	いわき市	社会貢献活動	25
一般社団法人CARNIVAL WORKS	郡山市	anneau café（あのかフェ）	26
ガールスカウト福島県連盟	福島市	一緒にGO！50！植樹キャンプ	27
葛尾創生電力株式会社	葛尾村	葛尾スマートコミュニティの構築・運営	28
金田建設株式会社	郡山市	EV充電スタンド普及設置事業	29
カネパッケージ株式会社	白河市	マングローブの植林活動	30
株式会社亀岡工務店	福島市	古材の再利用による二酸化炭素排出量の削減	31
神田工業株式会社	鏡石町	健康経営	32
北塩原村	北塩原村	裏磐梯・曲沢沼コカナダモ防除作業	33
株式会社共和建商	白河市	KYOWA大感謝祭、見学会の開催	34
組木屋えんどう	いわき市	産学官連携による伝統芸能継承への貢献	35
光建工業株式会社	郡山市	建設現場におけるワンコイン（安価）での熱中症対策自販機の展開	36

団体名（５０音順）	所在地	主な取組	頁
郡山医療生活協同組合	郡山市	地域住民と専門職のパートナーシップによるヘルスプロモーション（健康づくり）活動	37
郡山ザベリオ学園中学校	郡山市	ロハス学習（２学年）	38
郡山市	郡山市	こおりやまＳＤＧｓアワード	39
株式会社Kokage	田村市	アップサイクル商品の開発を通じた若者による持続的な地域づくりプロジェクト	40
こまがた元気会	喜多方市	空き家の撤去と更地を利用したマルシェや集いの場づくり	41
株式会社こんの	福島市	今すぐできる身近なＳＤＧｓ	42
さくらや いわき店	いわき市	学生服回収BOXの設置	43
合同会社シナプス	東京都	ＳＤＧｓ／カーボンニュートラル カードゲーム研修	44
白河市	白河市	女性に寄り添うライフ・ワークサポート事業	45
セコムエンジニアリング株式会社	郡山市	社内ゴミの分別・地域清掃活動の実施	46
只見町立只見中学校	只見町	服のカプロジェクト	47
伊達市	伊達市	児童の農業体験等と地元作物の実食について	48
玉川村	玉川村	SDGs女研フリマ	49
田村市	田村市	ぼくの、わたしの、おさがり交換会	50
特定非営利活動法人チームふくしま	福島市	福島ひまわり里親プロジェクト	51
天栄村	天栄村	天栄村ＳＤＧｓ宣言制度「てんえいＳＤＧｓパートナー」	52
一般社団法人tenten	福島市	移住・転入者が暮らしやすい福島づくり	53
株式会社東邦銀行	福島市	「TOHOキッズcaféキャラバン」	54
一般財団法人とうほう地域総合研究所	福島市	機関誌「福島の進路」による情報発信・情報共有	55
株式会社ナブアース	伊達市	サーキュラーエコノミーの実現と世界標準化、リサイクル活動の認知活動	56
檜葉町	檜葉町	ＳＤＧｓをより身近に、じぶんごとに	57
学校法人成田学園 幼保連携型認定こども園 希望ヶ丘こども園	郡山市	食の大切さを知る	58
株式会社二嘉組	郡山市	働きがいのある、働きやすい職場環境づくり	59
ニプロファーマ株式会社 鏡石工場	鏡石町	消灯確認の呼びかけ掲示	60
日本クリーンシステム株式会社	小野町	ペットボトルキャップ支援（ワクチン寄付）	61
日本たばこ産業株式会社 福島支社	郡山市	ひろえば街が好きになる運動	62
野木沢地区自治協議会	石川町	交通事故啓発活動（３－６）	63
ノボ ルディスク ファーマ株式会社 郡山工場	郡山市	廃棄物は宝物、マテリアルリサイクル、再利用化	64
野村證券株式会社 福島支店	福島市	『「野村まなぼう教室」サイコロゲームで輸入体験！』を実施	65
株式会社福産建設	石川町	地域貢献ボランティア	66
ふくしまＳＤＧｓネットワーク（FSN）	郡山市	ＳＤＧｓ 出前講座の企画開催、講師の派遣	67

団体名（５０音順）	所在地	主な取組	頁
ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム	福島市	ふくしまSDGsプロジェクト	68
福島学院大学	福島市	地域マネジメント学科有志による「キクラゲを通して、福島環境、農業、未来を考える」プロジェクト	69
一般社団法人 福島県環境測定・放射能計測協会	福島市	「食と放射能に関する説明会」の開催	70
公益財団法人福島県国際交流協会	福島市	やさしい日本語事業普及促進事業	71
公益財団法人福島県産業振興センター エネルギー・エージェンシーふくしま	郡山市	福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会の運営	72
公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会	福島市	スポーツからはじめる共生社会実現プロジェクト	73
福島県商工会女性部連合会	福島市	レジ袋削減「エコバッグ作成」	74
公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会	福島市	適切な森林整備に向けた計画の作成	75
公益財団法人福島県青少年育成・男女共生 推進機構福島県男女共生センター	二本松市	未来館フェスティバルの実施	76
福島県立あさか開成高等学校	郡山市	WITH（一緒に）♥Take Action!を合い言葉にした活動「ふくしまゼロカーボンへの挑戦！」	77
福島県立福島西高等学校	福島市	授業「総合的な探求の時間」での取組	78
福島市	福島市	食品ロス削減マッチングサービス「ふくしまタバスケ」	79
福島市子ども食堂NET	福島市	子ども食堂の運営支援	80
株式会社福島タネセンター	須賀川市	スマート農業技術の確立による生産性の大幅向上と農業の魅力発信	81
福島防水株式会社	郡山市	全社員の健康維持と能力開発向上	82
株式会社福島放送	郡山市	スポーツとゴミ拾い	83
株式会社福島民報社	福島市	SDGs 関連情報の発信・啓もう	84
福島民友新聞株式会社	福島市	事業者としての取り組み推進／職場環境づくり	85
福浜大一建設株式会社	いわき市	ICTを活用した施工管理	86
富士工業株式会社	中島村	消費電力削減	87
フジモリ機工株式会社	いわき市	地域美化活動	88
三井住友海上火災保険株式会社 福島支店	郡山市	SDGsセミナー	89
明治安田生命保険相互会社 郡山支社	郡山市	健康寿命の延伸	90
株式会社諸井緑樹園	南相馬市	環境保全への取り組みについて	91
大和電設工業株式会社	いわき市	水素燃料電池トラックの活用	92
株式会社ユニフォームネット	東京都	使用済みユニフォーム再資源化プロジェクト推進	93
株式会社ヨークベニマル	郡山市	店頭における資源物回収	94

▶ 福島県総合計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95

ふくしまSDGs推進プラットフォームについて

1 プラットフォームについて

持続可能な県づくりを進めるにあたっては、2015年の国連サミットで決定した国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けた取組が、幅広い分野や地域で展開されることが重要です。

福島県では、SDGsを入口とした、県内の市町村や企業、団体、NPOなどの多様な主体による連携・協働の機会を創出し、県づくりを推進するために、その活動の場としてプラットフォームを設置しています。

プラットフォームでは、県全域におけるSDGsの取組の一層の向上を図り、SDGsを通じた本県の課題解決に向けた広がりと活性化を促進するため、「ひろがる!」「つながる!」「まなべる!」の3つの視点から、様々な活動を行っています。

SDGsに関心のある団体であれば、県内外を問わず入会可能です。(会費は無料です)

2 対象

企業、団体、教育機関、NPO等、福島県内でSDGs推進に取り組む、又は関心がある団体
※任意団体を含みます。

3 活動内容

- (1)SDGsに関連するシンポジウム(フォーラム)・セミナー等イベントの開催
- (2)会員が実施するSDGs関連イベントや取組の発信
- (3)会員間の連携やマッチングの支援
- (4)会員間の先導的取組・SDGsに関連する研究等の情報共有及び相互啓発
- (5)その他、目的の達成に必要な事業

4 主なメリット

- (1)ひろがる!
会員間の交流やホームページ、メルマガによる情報の発信・受信をすることができます。
- (2)つながる!
解決したい課題を持つ会員と、解決策やノウハウを持つ会員とのマッチングをサポートします。
- (3)まなべる!
分科会の設置・参加を通じて、知見の共有や異分野連携・官民連携機会を創出できます。

5 会員登録について

会員登録申込書兼誓約書に必要事項を入力し、事務局(県復興・総合計画課)にご提出ください。

詳細や会員登録申込書兼誓約書は、下記の専用ホームページをご確認ください。

<専用ホームページ>

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/sdgs-pf/>



プラットフォーム 活動の経過

R3.10.18

福島県総合計画の策定

内堀県政になってから初めて作った総合計画。
福島の県づくりの方向性と、SDGsの目指す方向性は一致しているとの考えの下、「目指す将来の姿」をSDGsの視点でも描いたことが特徴。



計画P38-39より抜粋

R4.2.17

ふくしまSDGs推進フォーラム

次年度の「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」の正式な立ち上げに向け、県内の機運醸成につなげるために開催。
総合計画に掲げる「目指す将来の姿」の実現に向け、SDGsを入口（きっかけ）とした連携・協働による福島の未来づくりや誇りづくりの推進に向けたイベント。



R4.4.27

プラットフォーム始動（会員募集開始）

R4.6.13

プラットフォーム キックオフイベント、第1回SDGsセミナー

ふくしまSDGs推進プラットフォームの立ち上げを県内外に広く周知するとともに、産学官共金労言等の幅広い団体が、今後、力を合わせて連携・協働を進めていくことへの機運醸成や共感につなげる。



R4.9.24
~R4.9.25

ふくしまSDGs博へのブース出展

福島民報社主催のイベント。県内外のSDGsに取り組む企業・団体がブース出展。
当プラットフォームも参加し、連携協定締結企業である東邦銀行・東京海上日動と連動したクイズラリーや自分の18番目の目標を考えてもらうコーナーなどを設けた。



R4.12.8

プラットフォーム第2回セミナー（企業向け脱炭素セミナー）

プラットフォーム会員である東京海上日動火災保険(株)の協力を得て企業向けの脱炭素セミナーを実施。セミナー後には、会員同士で取組を共有し合う交流会を実施した。



R4.12.1

「ふくしまSDGsアワード」の開催決定及びエントリー募集開始

R5.1.5

プラットフォーム公式SNS開設

R5.1.26

プラットフォーム専用ホームページ開設

R5.3.5

「ふくしま復興とSDGsを考える県民シンポジウム」の開催



プラットフォーム 活動の経過

R5.7.6 プラットフォーム第3回セミナー (次世代の「新エネルギー社会」を福島から世界へ！)

プラットフォーム会員である(株)東邦銀行の協力を得て企業向けに新エネルギー社会についてセミナーを実施。

セミナー後には、会員同士で情報交換や名刺交換など交流会を実施した。



R5.11.19 「ふくしま復興とSDGsを考える 県民シンポジウム2023in会津」の開催

当プラットフォーム会員から出展4団体と掲示5団体のご協力により、SDGs推進に向けた取組を多くの来場者に発信するポスターセッションを実施した。



R5.11.27 プラットフォーム第4回セミナー (健康推進セミナー)

プラットフォーム会員である東京海上日動火災保険(株)の協力を得て健康経営やメンタルヘルスについてのセミナーを実施。

セミナー後には参加者全員で健康体操を行い、交流を深めた。



R6.1.20 ふくしまSDGs推進フォーラムの開催

県内でSDGsに取り組む団体と有識者によるパネルディスカッションや、参加者交流会を実施。また、会場内ではSDGsに関する取組を行っている団体がブース出展し、クラブ体験等を通じて来場者にSDGsの取組を紹介した。



【通年】SDGs出前講座

申込みや希望に応じ、官民問わず出前講座を実施。

SDGsの成り立ちや基本的な考え方、県総合計画との関連や、福島県内におけるSDGs推進の取組等について説明。

また、令和5年度から「SDGs」と「身近な環境(ごみ排出量削減、エシカル消費など)」をセットにしたコラボ講座を始めた。

【開催実績】

8回 255名(R4年度)
23回 1,002名(R5年度)



SDGsの取組応援メッセージ

福島県内で活動している皆さんのSDGsの取組に対して、ふくしまSDGs推進プラットフォームのアドバイザーやサポーターの方々から心強い応援コメントをいただきました。

当アドバイザーは、有識者や発信力の強い方に御就任いただいておりますが、県主催のSDGs関連イベントに御参加いただくなど、プラットフォーム会員の皆さんの活動を後押ししていただく「応援団」的存在です。

むらお のぶたか **村尾 信尚 関西学院大学教授**



アドバイザー

みなさんの素晴らしい取り組みは、アドバイザーの私の心にも頭にも良い刺激を与えてくれます。

つまるところ、SDGsとは「他者への思いやり」です。自分以外の人たち、未来の人間、生きとし生けるものを自分の思考回路に取り込むことができるか、が今問われているのです。

みなさんの活動は、コロナ禍の世界で言われた言葉「みんなが安全でなければ、誰も安全ではない」（2020/5/26 Financial Times）を思い出させます。自分が助かろうと思えば、他人も助けなければならない。そんな世界に私たちは生きています。

ふくしまSDGs、これからも応援します！

やまざき なおこ **山崎 直子 宇宙飛行士**



アドバイザー

「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」の会員の皆様の取り組み事例が、生活に根差しながら広がっていることを、とても心強く思います。

宇宙でのミッションでもチーム内外の連携が大切ですが、それは皆様の活動とも共通していると思います。それぞれの立場だからこそ見えること、感じるがあります。様々な視点を大切にし、お互い学び合い、行動をしていく、誰一人取り残さないという思いが、本プラットフォームで大きな力となることを願っております。

多くの取り組み事例が、福島県の皆様お一人お一人の幸せにつながることを、更には、共通した課題を抱える他の地域の皆様へも広がっていくことを、心より祈念申し上げます。

おかもと まさかつ **岡本 全勝 市町村職員中央研修所学長**



アドバイザー

広がりましたね、地域をよくしようとする活動が、県民の間に。

「SDGs」や「持続可能な開発目標」という言葉を聞くと、私たちからは遠いもの、難しいことと感じます。しかしこの冊子に紹介されている活動は、自分たちができることであり、身近なことばかりです。

それぞれの主体が、特徴を出しています。非営利団体が地域のつながりの場をつくる、会社がその知見を生かして中小企業を支援する、資源の再利用を進めるといったようにです。

知恵と少しのやる気を出せば、さまざまなことができますね。さあ、皆さんも、一歩踏み出しましょう。

つだ あつし
津田 敦

東京大学理事・副学長/社会連携本部長



アドバイザー

今回、取組一覧を拝見して、企業、大学、自治体と多様な会員が熱意をもって参加されていることに驚かされました。内容も多岐に渡っていますが、さすがは福島県、フードロスの削減や地元の食材についての食育など「食」に関する取組が多かったように思います。

また、皆様の提案をみて、SDGsにかかわる多くの活動は、ものを大切にする、無駄をしない、周りの人を思いやるといった、我々が大切にしてきた文化や伝統に非常に親和性が高いものだ実感できました。皆様の取組を通じて歴史、文化、風土に根ざした活動が広がり、福島県がさらに活性化し、貧困や不平等のない世界が実現していくことを願っています。

あさかわ
浅川

ちえこ

智恵子 日本科学未来館館長 IBMフェロー



アドバイザー

福島の皆さんの幅広い取組を拝見し、とても感銘を受けました。SDGsはグローバルな目標ですが、ローカルな活動の積み重ねによって初めて達成されるものと思います。福島では、個人はもちろんのこと、企業や自治体、学校、非営利団体など様々なコミュニティが主体となり、自分事として身近にある問題をとらえ、子どもから大人、高齢者の方々など多様な人たちを巻き込みながら問題解決にあたり、SDGsの達成に貢献されています。

私が館長を務めている日本科学未来館でも言語の違いや障害の有無を超えて、誰もが楽しめて、一緒に未来を考えるような場所になることを目指しています。多様性は力です。福島が多様性を生かした取組は、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念の実践とも言えます。これからも福島の皆さんの取組を応援しています。

たかだ みのも
高田 実

国連事務局経済社会局



サポーター

SDGsは世界中の人々の希望、夢、権利、期待を実現するための約束です。しかし、達成中間点を過ぎ、目標の15%しか進んでおらず、一部は逆行しています。その一方で、前進もあります。例えば、2015年以降、新たに8億人が電気につながり、そして、今激増する再生可能エネルギーは、2025年までには世界最大の電力源になると予想されています。

変革は可能です。皆様の力が今、最も必要とされています。一致団結した行動、意思、知恵が組み合わされることで、より良い未来を築くための突破口が開かれます。皆様の取り組みは地域社会の発展に寄与し、世界をより持続可能な未来に近づけています。国連からも、「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」のますますの発展を応援しています。

プラットフォーム会員の皆様の取組集

プラットフォーム活性化や会員間の情報交換、連携・協働の一助となることを目的に、会員の皆様のご協力をいただき取組集を作成いたしました。

※令和5年9月に掲載取組を募り、ご提出をいただきました全84団体の皆様の取組をまとめています。

各会員の取組は、50音順に掲載しております。なお、1団体1ページ以内にまとめて掲載しております。

ページ下部に会員様ホームページの二次元コードを記載しておりますので、是非ご覧ください。

会員一覧

プラットフォームに入会いただいている会員様の一覧は下記のホームページに掲載しております。こちらも併せてご覧ください。

▶専用ホームページ - 会員一覧

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/sdgs-pf/member.html>



取組集 凡例

団体名

主な活動場所：福島県〇〇市

主な取組

取組名

取組ごとの
関連ゴール

取組内容の説明

取組に関する写真・図

会員と連携可能な強み

会員登録申込書に記載の「会員と連携可能な強み」

会員と連携して取り組みたい課題

会員登録申込書に記載の「会員と連携して取り組みたい課題」

※「会員と連携可能な強み」、「会員と連携して取り組みたい課題」については、任意記載項目となっているため、申込書に記載のあった団体のみ、取組集に転記。

〒〇〇〇-〇〇〇〇 福島県〇〇市・・・

【HP】ホームページ等URL

【TEL】電話番号

【MAIL】メールアドレス（担当：〇〇）

HPの二次元
コード

※上記の団体情報は令和5年12月末時点の情報となります。

※HPや担当者名が伏せられている場合もございます。



あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社 福島支店

主な活動場所：福島県内全域



主な取組①

SDGs 経営簡易診断サービスの実施

当社は19業種別のSDGsチェックシートを用いた「SDGs 経営簡易診断サービス」を無料で実施しております。地域社会の持続的な発展に向け、診断を受診されたお客様には「診断結果報告書」+「無料オンライン面談サービス」をご提供させていただきます。このサービスにはSDGs宣言書の作成支援や自治体企業登録制度申請アシストサービスも含まれており、多くのお客様をふくしまSDGs推進プラットフォームや各市町村の自治体登録制度にご紹介させていただいております。

2022年の当サービス開始以降、本県内で350を超える企業・団体様にご利用いただき、大変ご好評いただいております。



主な取組②

テレマティクス技術を活用した地域の暮らしの安全・安心に関する取組

当社のテレマティクス自動車保険はデータ・デジタル技術を活用し、「事故を未然に防ぐ」「万が一の事故時には影響を減らし、回復を支援する」という新たな価値を提供することで、事故の無い快適なモビリティ社会の実現を目指しております。

加えてCO₂排出量削減の可視化機能も提供できますので、脱炭素に貢献していることを実感いただくとともにガソリン代の節約やエコドライブにお役立ていただけます。



福島県とあいおいニッセイ同和損保は、地域の暮らしの安全・安心の確保等に際する包括連携協定を締結しています。

「CSV×DX」と「テレマティクス自動車保険」

CSV×DXとは、様々なIT技術やデジタル技術を活用し、あらゆる業務を効率化し、生産性を向上させることにより、「社会の未来」を創出することを目指す取り組みです。当社のテレマティクス自動車保険は、このCSV×DXの取り組みと、データ・デジタル技術を活用し、「事故を未然に防ぐ」「万が一の事故時には影響を減らし、回復を支援する」という新たな価値を提供することにより、地域の暮らしの安全・安心の確保等に貢献しています。

テレマティクス自動車保険を通じて実現したいこと



レポート

1回の運転ごとの安全運転スコアとワンポイントアドバイス、走行ルート上に危険な運転を検出した地点を表示したマップ等をご提供します。

1か月ごとに月間の走行データをもとに、1か月の運転傾向を分析した結果をご提供します。

安全運転スコア

運転の総合評価を100点満点で表示。日々の運転が上達するうれしさを実感できます！

スコア例: 85

エコドライブ

CO₂排出削減の可視化機能

お客さまの「安全運転によるCO₂排出削減量」や節約できた燃料使用量等を見える化します。

※1 当社独自のアルゴリズムで算出した参考値であり、実際のCO₂排出削減量や燃料使用量は異なる場合があります。

※2 1か月ごとに提供します。

レポートを閲覧しているお客さまは、事故頻度が約21% (※1) 低いことがわかっています！

※1 発生頻度

※2 発生頻度

会員と連携可能な強み

- ・SDGs 経営・ESG経営を地域企業様が実現するためのサポート（「SDGs 経営導入自己チェックシート」や「カーボンニュートラル入門セミナー」）のご提供により福島県のSDGs推進に協力します。

〒963-8002 福島県郡山市駅前2丁目11番1号 ビッグアイ15階（郡山支社）

【HP】 <https://www.aioinissaydowa.co.jp/>

【TEL】 050-3460-0578

【MAIL】 riyouta.tsukamoto@aioinissaydowa.co.jp（担当：塚本）





生活協同組合あいコープふくしま

主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

生産者交流会



夏休み親子企画の生産者交流会で愛農会の無農薬田んぼ見学と二うの花摘みを行いました。愛農会の無農薬の田んぼ見学では生産者の皆さんの稲作への想いや取組のお話と生き物観察を行いました。農薬を使用しなくても雑草が少ない田んぼは1つの生態系ができており、様々な生き物の姿に子どもたちは歓喜の声をあげていました。また、二うの花摘みでは花摘みすることで甘く、美味しい二うが育つことを学び、大人から子どもまで黙々と二う花摘み作業を行いました。生産者交流会で学んだことを食育講座で伝える活動にも取り組んでいます。



【愛農会 無農薬田んぼ見学】



【二うの花摘みの様子】

主な取組②

石けん普及活動



環境にやさしい石けんの利用を広げる活動として、石けんの学習と利用方法を学ぶ職員会議や組合員カフェ会を行っています。職員会議では作業着の洗濯で石けんの洗浄力を確認しました。石けんカフェ会では石けんの泡立て方から洗い方まで洗濯機を使い、実践しました。また、毎年開催されるあいコープまつりでも石けんの相談コーナーを配置して、多くの組合員への普及活動と利用の促進に取り組んでいます。石けんの普及活動として石けん講座の開催も取り組んでいます。



【職員会議de石けん】



【石けんカフェ会 開催】

会員と連携可能な強み

食の知識を活かして情報提供を行います。(食の学習会や食育講座、子育て講座、石けん生活講座等の開催)

会員と連携して取り組みたい課題

- ・福島県の有機農業の推進
- ・食育を通じた福島県民の健康づくり
- に協力したいと考えています。

〒963-0101 福島県郡山市安積町日出山1-110-1

【HP】 <https://icoop-fukushima.jp/>

【TEL】 024-956-0011

【MAIL】 icoop-fukushima@ia1.itkeeper.ne.jp





主な取組①

プログラミング学習支援システム「AOJ」で情報教育格差の解消を目指す

情報システム学部門の渡部有隆上級准教授が開発・保守運用を手掛けるAizu Online Judgeシステム（AOJ）は、学習者が作成したプログラムをオンライン上で即座に自動採点するシステム。問題文や解説の英語化が進んでおり、中高大・一般の学習者のべ約13万人が国内外から利用しています。本学ではこのシステムを活用して、浜通り地域での高校生へのプログラミング教育、県内高校の「情報」科目のカリキュラム作成・授業支援、リカレント教育の一貫である「女性のためのITキャリアアップ塾」事業などを実施、ICT分野において幅広く「質の高い教育」に貢献しています。

【関連URL】<https://u-aizu.ac.jp/information/aoj.html>



主な取組②

開発途上国の若者・女性の ICTスタートアップ人材育成を支援



本学では福島県と連携し、2021年度JICAの草の根技術協力事業の採択を受けて、チュニジアのICT専門大学においてICT分野でスタートアップ（起業）を狙う若者や女性を支援する事業を行っています。

この取組を通じ、途上国の持続可能な社会の発展に寄与するほか、大学としての国際貢献力や国際発信力を高めていきます。あわせて、海外での事業のノウハウ・成果を持ち帰り、地域の国際化や起業を志す若者・女性への支援を推進するなど、事業の経験や成果を地域に還元していきます。

【関連URL】<https://sway.office.com/fE8if3Ny0bXavnJD?ref=Link>



会員と連携可能な強み

AI、IoT、ブロックチェーン、メタバース等の先進的なICTテクノロジーは、様々な領域において持続可能な社会の構築に貢献できることから、異業種との連携を深め、SDGsの多くの目標の実現に取り組みたいです。

〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀

【H P】<https://u-aizu.ac.jp/>

【TEL】0242-37-2557

【MAIL】opm@u-aizu.ac.jp（担当：企画運営室 麻野）





会津坂下町

主な活動場所：福島県河沼郡会津坂下町

主な取組

SDGsによる施策管理



町が実施する施策が、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」や、全ての町民のための施策となっていることを明確にするため、SDGsによる施策管理を実施してまいります。

【会津坂下町第六次振興計画】



【SDGsと会津坂下町第六次振興計画実施計画の関係図】

【SDGs】17目標		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
第六次振興計画実施計画	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標をなくそう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18 暮らしやすさ、安全・安心のまちづくり	目標を達成しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

969-6592 福島県河沼郡会津坂下町字市中三番甲3662番地

【HP】 <https://www.town.aizubange.fukushima.jp/>

【TEL】 0242-84-1504

【MAIL】 seisaku@town.aizubange.fukushima.jp（担当：永山）





主な取組①

遊休農地の有機農地転換事業



年々増加傾向にある、地域内の遊休農地を、雑草・灌木類の除去から耕耘まで行い、野菜等の栽培耕地に甦らせて、自然の循環に適合する農業技術の実証圃場を造成します。その上で、農業生産（自適農栽培）技術習得の研修地として、循環可能な環境の維持に寄与する活動を展開しています。

来期は、当該活動と平行して、「福島県里山林整備事業」に参加し、農産物への獣被害防止策の実証実験を検討しています。

この取組により、就業人口の減少（流出等）がもたらす、遊休農地の拡大と空き家の増加をくい止め、環境に負荷を掛けず経費負担の少ない農業経営と人手不足解消に向けた、関係（定住）人口の創出を実現し、集落力を持続させます。



実施場所：南会津町（舘岩地域）湯ノ花
実施時期：令和4年10月～11月
実施者：愛twoランドみなみ農産部
実施規模：約5.0 a

主な取組②

科学的自然適合型農法の実証事業



現在、慣行的に行なわれている農業生産技術（化学肥料の投入や除草及び虫害防止のための農薬散布）は、土壌汚染や水環境に負荷を掛けるばかりでなく、世界的な「気候変動による災害」と無縁ではないとの認識を以て、これとは異なる（身近な有機資材と微生物の働きに着目した）技術「自然の循環に適合する科学的農法」を実証するための取組みです。

地域内における「里山と農地の関係性」を重要な生産形態と位置付け、賦存する有機資材の活用を図り「科学的で多様な自然界の働き」を実践・実証することで、身近な資源（資材）の有効性を導き出し、持続する環境と健全な農産物の安定供給拠点を構築します。



実施場所：①南会津町（田島地域）田島寺前
②南会津町（舘岩地域）貝原
実施時期：令和4年6月～11月
実施者：愛twoランドみなみ教育部・農産部
実施規模：①田島：3.0 a ②貝原：2.0 a

会員と連携可能な強み

- ①無農薬・無化学肥料栽培の科学的実証技術
- ②ミネラル物質を含む土壌内養分等の診断技術
- ③生活のライフタイム及び行政的課題解決の対応力
- ④人的ネットワーク力

会員と連携して取り組みたい課題

- ①遊休農地の除草（刈り払い作業）と圃場整地の機械作業化
- ②森林整備で行なう間伐材等の丸棒加工
- ③鳥獣被害防止柵（加工丸棒）の設置作業
- ④有機無農薬（無化学肥料）農産物の安定販売



主な取組①

水源地の森保全活動



アサヒビール福島工場が中心となって実施している水系の豊かな水の水源地保全活動。水源地の森林で「枝打ち（枝払い）」や「下草刈り」を実施し、水源地保全に貢献すると同時に参加者（社員とそのご家族）が「水源や自然の循環」を考える機会にもなっています。



【会津若松地方森林組合さんによる作業説明】



【実際の作業風景】

主な取組②

りんご農園での収穫作業支援



ニッカウヰスキー弘前工場が中心となってアサヒグループが取り組む農業支援活動。

弘前工場が製造する「ニッカシードル」の原料となるりんご農園の収穫期における労働力不足解消と、持続可能な農業の実現に向けた地元農業の魅力発信を目的に毎年実施しています。



【実際の作業風景】



【収穫したりんご】

会員と連携可能な強み

グループ内にはSDGs事業に特化した会社もあり、間伐材等を活用した「森のタンブラー」や「森のマイボトル」などのサステナブル製品を手掛けており、それらを活用した環境セミナーも実施可能です。

会員と連携して取り組みたい課題

サステナブル製品は地域独自の素材での協働取り組みも可能です。セミナーやイベントでの協働取り組みも可能です。事例共有や情報交換などをしながら、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。





イオン東北株式会社 福島事業部

主な活動場所：福島県福島市、郡山市、白河市、いわき市、浪江町、広野町

主な取組①

にぎわい東北 地域がにぎわう循環型プロジェクト



本プロジェクトでは、店舗で販売できずに廃棄していたパンの切れ端やお取引先さまの商品製造過程で出る規格外の食品などを家畜の飼料や堆肥へ有効活用し、商品の開発や販売を行う「食とくらしの循環型サイクル」を形成してまいります。

一例として、食品残渣からできた飼料などを食べて育った豚肉を商品化し、また食品残渣でできた培養土を商品化することで、地域のお取引先さまと連携した持続可能な商品開発・販売に取り組んでいます。



主な取組②

浪江町・双葉町内での水素で走る「移動販売車」運行



今後、浪江町、双葉町で特定復興再生拠点区域の避難指示解除が段階的に見込まれるなか、買い物環境確保の取組のひとつとして、イオン浪江店を拠点とした水素で走る「移動販売車」の運行を開始しました。この取組は、日々のお買い物に不便を感じている皆さまのお買い物を支援すると同時に、地域の皆さまのコミュニケーションの場にもなると考えています。

※この「移動販売車」の運行は、2022年5月31日に締結しました「特定復興再生拠点区域等における水素燃料電池自動車を活用した移動販売事業に関する基本協定」による取り組みです。



会員と連携可能な強み

- ・自社の施設を使って、地域住民へ広く啓蒙活動やPR活動ができます。
- ・SDGsに関わる商品の販売ができます。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・健康課題解決のための取り組み
- ・子育て支援の取り組み
- ・環境課題解決に向けた啓発活動

〒960-0194 福島県福島市南矢野目西荒田50-17

【HP】 <https://aeontohoku.co.jp/>

【TEL】 022-264-5909

【MAIL】 t_naitou@aeontohoku.co.jp (担当：内藤)





石橋建設工業株式会社

主な活動場所：福島県本宮市

主な取組①

SDGs推進モデル工事

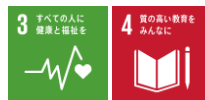


石橋建設工業は2021年に「SDGs宣言」をしました。建設業を営む者として、工事の中でSDGs推進を実践すべく、モデル工事を設定して様々な施策を行っています。

- ・被害者支援に貢献するため、寄付型自動販売機を設置。
- ・工事安全確保のため、専門家の指導を受け、交通安全向上のためカーブミラー清掃等を実施。
- ・建設事業への理解を深めてもらうため、近隣園児の重機体験などを開催。
- ・工事関係者でチャリティゴルフを行い、本宮市のSDGs推進への寄付を実施。 など

主な取組②

SDGs推進たかぎ保育所ふれあいイベント (モデル工事での施策)



2023年は、たかぎ保育所園児を対象に、本宮高等学校美術部、郡山北警察署本宮分庁舎職員のご協力をいただき、工事完成前の道路でお絵描きと道路横断練習を行いました。

【道路にお絵描き】



【道路横断練習】





猪苗代町立猪苗代中学校

主な活動場所：福島県耶麻郡猪苗代町

主な取組①

よみがえれ！猪苗代湖！！2023 ～猪中型資源循環サイクル～



地球温暖化の原因である二酸化炭素の削減と、資源循環サイクルのシンボルとして、コキアの栽培を行っています。

前年度に栽培したコキアから種を採取し、苗を作りました。コキアの栽培に使用する肥料には、回収した水草を使用し、資源をムダにしないようにしています。地域団体と連携・協働し、猪苗代町内の花壇でも栽培し、多くの方々に興味を持っていただけるようにしています。



【湖畔で水草回収】



【種から育てたコキア】



【回収された水草】



【町の花壇への定植】

主な取組②

ムダのない やさしい社会をつくろう ～ヒシの実ストラップ作りと発信～



今年度は新たに回収したヒシを使って「ヒシの実ストラップ」を作りました。猪苗代湖の水質を悪化させる原因の一つであるヒシの実を回収し、色を塗って、ビーズやひもを付けて完成です。地域の方々と一緒にストラップを作ったり、「磐梯まつり」で取組を発信したりしました。

私たちの思いを広げ、水質改善・環境保全をみんなでかなえるために、様々な機会を取組を発表しています。



【地域の方とストラップ作り】



【ヒシの実ストラップ】



【地域の方へ取組を説明】



【磐梯まつりで、環境保全への発信】

会員と連携可能な強み

社会に開かれた教育課程を踏まえ、町内の様々な機関団体と教育活動を実践しています。

会員と連携して取り組みたい課題

生徒たちが実践を発表・発信できる場や、互いの実践を聞きあう場があれば参加させていきたいです。

〒969-3133 福島県耶麻郡猪苗代町大字千代田字中島5-1

【HP】 <https://www.town.inawashiro.fukushima.jp/cb/schoolhp/c-ina/>

【TEL】 0242-62-3312

【MAIL】 inawashiro-j@fcs.ed.jp (担当：五十嵐)





主な取組①

地域公開講座 講演「作業することが健康に良い理由」

地域の方々をはじめ、誰でも参加が可能な「地域公開講座」を実施しました。

「人生100年時代」と言われている今、より多くの人々が健康に長生きするためにはどうすべきか、健康寿命の研究結果をもとに、作業療法士から見た「作業」を使いながら、健康寿命をのばすためのポイントを講演しました。



【講演「作業することが健康に良い理由」】

主な取組②

地域公開講座 講演「車椅子介助のポイントをお教えます！」

地域の方々をはじめ、誰でも参加が可能な「地域公開講座」を実施しました。

日本は超高齢社会となり、介護等で車椅子を使用する機会が増加しています。しかし、車椅子を正しく使用しなければ事故に繋がる危険性もあります。そこで、介助による車椅子走行や乗り移り等について、安全に、安心して利用するためのポイントをデモンストレーションを交えて講演しました。



【講演「車椅子介助のポイントをお教えます！」】





主な取組①

学校給食などからSDGsを考える取り組み

SDGsが掲げている福祉・環境・教育などの17の目標から、学校給食（食）とSDGsの関わりについて考え、学校給食に関する「地産地消の活用」や「食品ロス削減」等へ繋げることを目的とし、市内小中学生等から標語を募集するなどの取り組みを実施しています。



【令和4年度標語コンクール表彰式】

主な取組②

産学官連携による「いわきアカデミア」の取り組み



いわき市では、人口減少・少子高齢化が進む中、将来にわたりまちの活力を維持していくため、次代を担う人財の育成・人財還流に向け、産学官が一体となって教育プログラムを展開する「いわきアカデミア」に取り組んでいます。

主な取組みとして、市内の高校生を対象に、市内企業の現場等を訪問・体験し、経営者などの仕事への情熱や職業観などを聴く機会を設け、市内企業の理解の促進に繋がるとともに、自らの進路や生き方を考える場を提供する「いわき発見ゼミ」などを行っています。

(検索ワード)



【会社発見ガイドブック】

いわきアカデミア

検索

【企業訪問】



【職業体験】





いわき市中央卸売市場協会

主な活動場所：福島県いわき市

主な取組①

市場内一斉清掃



市場内の環境美化を図るために、年2回（6月・10月）にわたり、市場内一斉清掃を行っています。



【市場内一斉清掃の様子】

主な取組②

料理教室



場内事業者の協力を得て、新鮮な野菜と魚介類を利用して家庭料理を学んでいただくとともに、豊かな食生活の実現と魚食普及を図るために開催しています。



【料理教室の様子】



【いわき魚塾の様子】



おおたま村づくり株式会社

主な活動場所：福島県安達郡大玉村

主な取組①

「エシカル消費」で持続可能な社会をつくらう



あだたらの里直売所では地元の野菜を販売し、地産地消につながっています。これは運送にかかる燃料を削減することになり環境に対して負荷を軽減することにつながります。また、規格外の野菜を販売していますが、これも無駄を省くことになります。

これら以外にもあだたらの里直売所では障がい者施設の商品を販売してきました。これは様々な立場の人々が社会の一員として参加・活躍できる社会につながり「エシカル消費」につながっています。

こうした取り組みを福島県内に広めるため、毎月12日を「エシカルの日」として啓発イベントを開催したり、啓発グッズの設置を通して情報発信に取り組んでいます。

※エシカル消費とは…地域の活性化や雇用などを含む、人・地域・環境に配慮した消費行動です。



店内普及グッズ



イベントの様子



イベントの様子

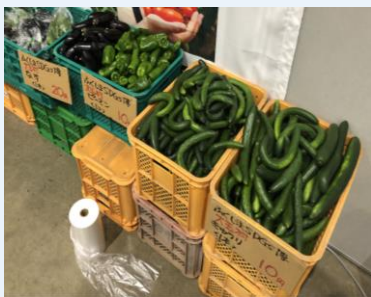


主な取組②

もったいない（規格外）野菜を食べよう



農家が作った野菜の中には農協やスーパーの流通に卸す際には決められた規格（大きさ、形）にしなければならず、規格外になってしまったものは廃棄されてしまいます。こうした味はおいしいのに捨てられてしまう「もったいない野菜」をあだたらの里直売所で販売することで農家の所得向上、生産者の意欲向上、新規就農につながることで持続可能な社会を目指しています。



店頭に並ぶもったいない野菜。
大きなきゅうりや曲がっているきゅうり



あだたらの里直売所にもったいない野菜を
買い求める消費者

会員と連携可能な強み

- ・新鮮でおいしい野菜の提供ができる
- ・広場を活用することでイベントの開催が可能

会員と連携して取り組みたい課題

- ・他業種との連携を通して物産活動の機会を得たい（イベント時の出店など）
- ・広場を活用してイベントの開催など

〒969-1301 福島県安達郡大玉村大山字新田10-1

【H P】 <https://www.tif.ne.jp/fuku-gt/guide.html?id=162>

【TEL】 0243-24-2317

【MAIL】 murazukuri@dream.email.ne.jp（担当：矢吹）





一般社団法人オープンデータラボ

主な活動場所：福島県福島市、郡山市

主な取組①



自治体SDGsイベントにおける講演

これからSDGsにチャレンジしようとしている自治体において、SDGsの必要性や考え方、事例・効果などを、イベントのパネリストとして紹介、これからの取り組みに弾みをつける取り組みを実施しています。

<桑折町の例>

<https://www.town.koori.fukushima.jp/soshiki/seisaku/seisakunow/2022/11689.html>

https://www.shinkin.co.jp/fshinkin/_news/contents/15186/0428_koori_sdgs.pdf



【桑折町SDGs推進町民会議の様子】

主な取組②



自治体におけるSDGs取組推進

地域企業がよりSDGsに取り組みやすい環境を構築するため、自治体に登録・認証制度を設ける支援を行っています（金融機関、保険会社などと協力）。

弊団体は以前より社会的な取り組みにより生じるインパクトの測定（社会的インパクトマネジメント）を得意としており、休眠預金の評価業務など、ステークホルダーに対して社会的価値を客観的に明らかにする取り組みを実施しています。

これらノウハウをもとに目標値を定め、自治体独自の企業認定を支援しています。

主な取組③



民間企業のSDGs目標達成のための伴走支援

SDGsターゲットの決定、成果の測定と分析、評価、報告・提案を、SDGsに取り組む中小企業に伴走しながら実施していきます。伴走を通じて、自社内で担えるようにスキル移転をしていきます。

SDGsの目標達成ステップに則り、社内外のステークホルダーと調整しながら目標策定・目標達成のためのアクションを伴走します。

データ測定や分析には各種ITサービスを活用、KPIの達成把握や意思決定の迅速化を目的にDXを取り入れます。

SDGs目標達成のためのステップ・サイクル



主な取組④

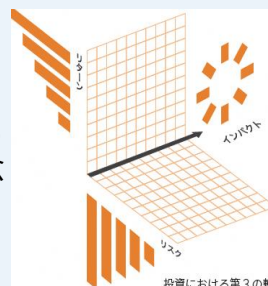


ESG投融资等における評価支援

インパクト投資・ESG投資・サステナビリティファイナンスにおける、主に財務指標以外の評価を行い、分析、レポートを行います。また、指標向上・目標達成に向けた対象顧客のサポートも実施いたします。

SDGsの取り組みも健全な財務状況でなくては成り立ちません。リスク・リターン・インパクトの3側面から評価を行います。

リスク・リターン・インパクトはトレードオフの関係にはありません。あくまでも従来とは異なる第3の判断軸を提示する概念だと言えます。



投資における第3の軸

会員と連携可能な強み

SDGs目標達成のための取り組みについて、その社会的インパクトの評価や可視化を行っています。この取り組みからステークホルダーからの信任につなげ、売り上げやブランド価値の向上を図ります。

会員と連携して取り組みたい課題

ESG投資におけるS（Social）領域のインパクト評価を福島で取り組みたいと思います。SDGs実現のための資金調達をより行いやすくすることで、民間企業の参画を促進したいと考えております。

〒960-0116 福島県福島市宮代字一本木15-2

【HP】 <https://odl.or.jp/>

【TEL】 080-7012-8317

【MAIL】 h.nagai@odl.or.jp（担当：長井）





小名浜海陸運送株式会社

主な活動場所：福島県いわき市

主な取組①

社会貢献活動



- ・会社周辺の清掃活動を平日朝に実施しています。
- ・地域主催の交通安全運動や清掃活動（春・秋）へ参加しています。



【ゴミ拾い活動の様子】

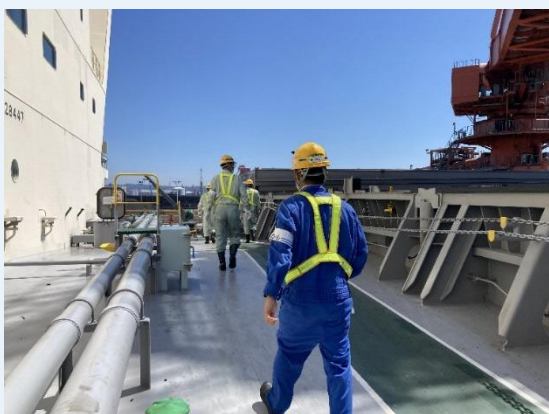
主な取組②

労働安全衛生



- ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいます。
- ・「安全衛生委員会」を設置し、定期的な安全パトロールを実施しています。
- ・作業中にアイスベストを使用し熱中症対策を実施しています。

【安全パトロールの様子】



【アイスベスト】





主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

anneau café（あのカフェ）



高校生や大学生が子どもたちの社会課題を提起し、共に考え、コーヒーを飲むことが子ども食堂等へのチャリティになる全員参加型のカフェプロジェクトです。1杯のコーヒーとチャリティを通して、社会課題を解決する仕組みを創出します。



【anneau cafe（あのカフェ）の様子】

主な取組②

無料塾FOUR'S STUDIO



ひとり親家庭を含め様々なご家庭を対象に、教育格差をなくし、楽しみながら学ぶことを目的とした子ども食堂型の無料塾を月1回開催しています。子どもたちと関わってくれるのは多くの高校生・大学生ボランティアスタッフです。また、ひとり親家庭や様々な背景を抱えたご家庭には、食材の直接支援やSNS等を用いた相談支援も随時行っています。



【高校生・大学生ボランティアスタッフによる指導】

会員と連携可能な強み

高校生や大学生メンバーと共に地域をフィールドとして様々な課題解決に取り組むことで、次世代育成につながるとともに、持続可能なまちづくりを行うことができる。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・若い力を生かして地域の様々な課題を解決するプロジェクト
- ・子ども支援や無料塾を中心とした子どもを支えるまちづくり





ガールスカウト福島県連盟

主な活動場所：福島県内各地

主な取組①

一緒にGO！50！植樹キャンプ



県連盟結成50周年を記念し、フォレストパークあだたら内に花粉の少ない杉の木105本の植樹を行いました。森林保全が温暖化対策など環境保全につながることを学ぶ機会となり、会員は成長し森になる姿を想像しながら作業を行いました。

今後も、大玉村との連携を図り、長期的そして持続的に「森づくり」に関わっていきます。今回の植樹は、多くの皆さまのご支援をいただきました。このつながりを大切に一緒に目標を達成していきたいです。



苗木の贈呈



願いを込め植樹

主な取組②

明日へ繋ぐふうせんかずらの旅プロジェクト



2022年度より未来につながる活動として、福島に緑を育てるプロジェクトに取り組んでいます。ふうせんかずらは育てやすく蔓性の植物で、グリーンカーテンにもなり地球温暖化対策に繋がります。花言葉も「飛翔」「あなたと共に」と素敵であることからたくさんの人とつながりを持ち、この活動を推進していくことでSDGs13, 15, 17の達成を目指して2023年度も展開しています。会員で成長を見守り、第2号の種を採取することもできました。

3月から福島県内をはじめ全国に種を配布、ふうせんかずらはこれからも旅を広げていきます。



1号の種を配布



1号の種発芽



たくさんの2号の種を採取
(福島県青少年会館にて)

会員と連携可能な強み

ガールスカウトは、より幸せな社会と未来の実現を目指し、リーダーシップを発揮できる女性を育てています。他団体とのパートナーシップの構築を大事に、また重きを置いて活動しており、県教育庁（社会教育課）をはじめとして、各自治体や報道機関とも積極的に繋がりを持っています。





葛尾創生電力株式会社

主な活動場所：福島県双葉郡葛尾村

主な取組①

葛尾スマートコミュニティの構築・運営



葛尾村の中心部に太陽光発電設備と蓄電池、全長5kmの自営線による「葛尾村スマートコミュニティ」を構築し、運営しています。電力の地産地消で村内に経済循環を生み、災害時には電力自立によって村民の生活を守ります。



主な取組②

福島県産再エネ活用拡大事業への参加



県内の再エネ発電所の電力を県内の需要家（事務所・工場等）に提供する事業に、小売電気事業者として参加し、地域内での再エネ流通による地域活性化に寄与しています。





金田建設株式会社

主な活動場所：福島県郡山市～福島県内全域

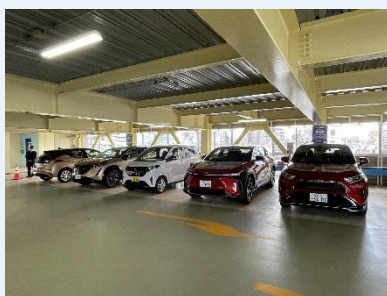
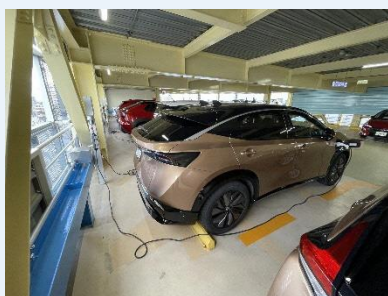
主な取組①

EV充電スタンド普及設置事業



弊社が郡山駅前で運営中の161パーキング（郡山市駅前二丁目12番5号）に、電気自動車用充電スタンドを県内最大数の17台設置し、2023年1月12日より運用を開始しました。

EVをはじめとするエコカーの普及による脱炭素社会の実現を目指すとともに、特に充電設備が少ない郡山駅前に設置することで、駅前でショッピングや駅を利用した際に手軽に充電ができる環境を提供したいと考え、充電スタンドの設置に至りました。



電気自動車用（EV・PHEV）用 充電スタンド設置しました。



① **17台**注①（普通200V）
福島県内最大の設置台数

② **WeChargeアプリ**注②

WeChargeのアプリをダウンロード
車登録or料金プラン選択で利用可能

ご利用案内③

利用時間
……24時間
対応車種
……EV、PHEV車
充電ケーブル
……なし
ご利用者様自身で
ご準備ください
駐車料金
……必要です
通常料金が発生します

④ 青色が目印

場内の案内に従って4階まで、
4階の西側と北側に青いカラーが
充電スタンド設置場所になります。

⑤ SDGsに貢献



注①：A棟12階に充電スタンド14台設置しておりますが、充電スタンド一機あたり1機あたり2台の充電スタンドを設置しております。
注②：WeChargeのアプリをダウンロードし、車登録or料金プラン選択で利用可能となります。詳しくは弊社までお問い合わせください。

161パーキング
郡山市駅前二丁目12-5
024-922-0301

161
PARKING

主な取組②

パートナーシップとの地域貢献活動



男子プロバスケットボール・B2リーグの「福島ファイヤーボンズ」を運営する福島スポーツエンターテインメント株式会社とSDGsパートナー契約を締結し、その活動の一環として、郡山市内の小中学校へバスケットボールを寄贈し、プロのコーチや選手によるクリニックを実施しました。子どもたちの笑顔をつくる取り組みを行うことで、地域を元気にする活動に努めています。

【実績】

2023年2月

郡山市立内小学校

生徒22名

2023年10月

郡山市内中学校

男女バスケットボール部



【2023年10月11日バスケットボール贈呈】



【2023年10月11日クリニックの様子】

会員と連携可能な強み

「文化とつながる、人とつながる、未来とつながる、社会とつながる、街とつながる」

弊社は、建設業を通じて様々なかかわりを大事にしています。

会員と連携して取り組みたい課題

新型コロナウイルス感染拡大防止支援、コロナ禍で発表の機会が激減しています。

子どもたちを応援し、福島のために貢献していきたいと考えています。

〒963-8852 福島県郡山市台新二丁目21番13号

【HP】<https://www.kaneta-const.co.jp/>

【TEL】024-922-3995

【MAIL】takahashi@kaneta-const.co.jp（担当：高橋）





カネパッケージ株式会社

主な活動場所：福島県白河市

主な取組①

マングローブの植林活動



- 会社の利益の一定部分を社会に還元し、水生生物のゆりかごであるマングローブ林の保護や地球温暖化対策などに役立てています。【2022年にマングローブ植林1300万本達成】
- 自動販売機を通してマングローブ植林活動参画企業を募集し、設置企業様から毎月缶ジュースの売上金の一部をマングローブ植林基金として寄付しています。



【実際の植林風景】



ジュース10本で
マングローブ1本
植林できます

【自動販売機イメージ】

主な取組②

梱包材削減のご提案



輸送時に使用している梱包材をプラスチック製の発泡材から段ボール材へ変更することで、CO2を約80%削減出来る提案を行っています。

◆ 最適な梱包によりCO2削減をご提案。

発泡材緩衝から段ボール緩衝へ



※ CO2排出量基準(参考資料)

EPE緩衝材 100g = 830g/CO2

ダンボール 1m³ = 181g/CO2

この材質変更で約80%
のCO2を削減しました。

会員と連携可能な強み

- ・ 製品に合わせた最適な包装設計により、CO2削減をご提案
- ・ 物流の統合・効率化により、CO2削減をご提案
- ・ マングローブ植林支援自動販売機を設置頂くことで環境改善活動を支援

会員と連携して取り組みたい課題

- ・ SDGsを通じた活動を通じて多くの企業様と情報交換など交流を行ってまいります。

〒961-0838 福島県白河市老久保山1-1 白河ワーク内K棟

【HP】 <https://www.kanepa.co.jp/>

【TEL】 0248-21-5590

【MAIL】 ichinose@kanepa.co.jp (市瀬)





株式会社亀岡工務店

主な活動場所：福島県福島市、会津若松市、南会津郡南会津町

主な取組

古材の再利用による 二酸化炭素排出量の削減



日本の伝統的な木造建築物である古民家。その場でリノベーションされて再度利活用されることが最も望ましいことであり、持続可能な循環型建築社会へ寄与します。

しかし、一方では、維持することが困難となり、やむを得ず解体されてしまったり、解体することもできず放置されてしまっているものもあります。解体処分されれば、そこで使われていた多くの木材からはCO₂が発生します。

私たちは、この日本が世界に誇る伝統建築である古民家で使われていた、太い梁等の立派な木材を、後世に良い状態で残せるようにあらゆる手段を考えます。

例えば、古材を海外に輸出し日本の文化とその国の文化を融合させ、新たな日本建築の普及を海外で展開します。

CO₂の削減は勿論ですが、それにかかわる若者の育成、世界各国の技術者とのパートナーシップで、日本の伝統文化を世界に普及させます。

船便でのCO₂の発生を心配される方もおられますが、木材の焼却処分により発生するCO₂に比べるとそれほど多くはありません。福島の木材を使ったこの取り組みは、福島だからハードルは高いですが、福島だからこそ必ず達成したいと考えております。



会員と連携可能な強み

- ・木造建築物の耐震設計
(在来工法構造計算、木造ラーメン、CLT等)
- ・古材木材の再利用
- ・古民家の移築
- ・古民家の耐震診断および改修 等

会員と連携して取り組みたい課題

- ・県産材の利用
- ・木質材料の研究
- ・外国人材や、グローバル人材の活用および海外展開
- ・海外への商品、やサービスの販売 等





神田工業株式会社

主な活動場所：福島県岩瀬郡鏡石町

主な取組①

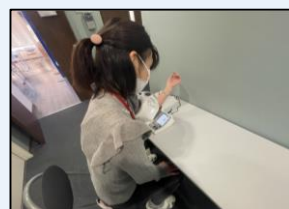
健康経営



自社でプロデュースした塩分ケアサプリメント「むくまんもん」の社内販売、一般販売で、血圧上昇によるリスクの軽減に向け活動を行っています。

その他、SNSやHPを活用し、減塩のためのレシピやむくみ解消・肩こり改善などを解消するストレッチ情報を発信することによって、社内での健康経営や、多くの方の健康な毎日のサポートを行っています。

家族や会社の同僚、友人をはじめ広く世界中の方が血圧リスクで悩むことが無いように活動を継続していきます。



主な取組②

就労支援施設の支援



従業員向けの福利厚生イベントとして、就労支援施設で製作いただいたお菓子を配布しました。毎年行っているクリスマスにお菓子を配布する機会に「作る側」も「食べる側」もみんながハッピーになれるものを、と企画し、姫路・福島・熊本の全拠点で就労支援施設様の手作りクッキーを配布しました。誰もが何気なく食べているお菓子も作り手がいること、1つのお菓子が就労支援につながることに気づく機会になればと取り組んでいます。



会員と連携可能な強み

- ・既存設備の非接触化・・・タブレット等液晶画面を触れずに操作可能に
- ・世界最薄のビーコン（Bluetoothで位置情報を捉え情報発信する機械）の活用
- ・物販事業（他社様の技術を活用し新たな製品を企画・販売 実績:サプリ・潤滑油）

会員と連携して取り組みたい課題

- ・空中ディスプレイ技術を用いて社会の健康・クリーンにつながる製品・用途の開発
- ・小型・薄型（wearable）ビーコンを用いた新たな情報活用
- 例：アニメ・漫画・ドラマ・映画の聖地巡礼のような地域振興、スポーツ促進イベントなど

969-0402 福島県岩瀬郡鏡石町大宮360-5 神田工業株式会社 福島工場

【H P】 <https://www.kanda-kogyo.co.jp/>

【TEL】 0248-62-6135

【MAIL】 keiko_kobayashi@kanda-kogyo.co.jp（担当：小林）





北塩原村

主な活動場所：福島県耶麻郡北塩原村

主な取組

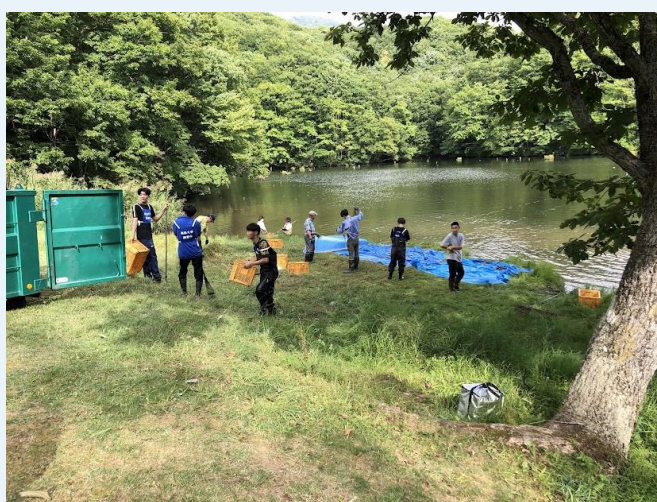
裏磐梯・曲沢沼コカナダモ防除作業



北塩原村・裏磐梯湖沼群の水環境を維持するため、名所の一つである曲沢沼で水草（コカナダモ）の除去を行っています。

この活動は裏磐梯エコツーリズム協会が猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会『湖未来基金』を利用し、協会会員をはじめ地元の方々や福島大学の学生など多くのボランティアの皆さまの協力をいただきました。

今後も水環境維持の取り組みを続けていきます。





株式会社共和建商

主な活動場所：福島県白河市

主な取組①

KYOWA大感謝祭、見学会の開催



地域貢献・地域おこしのために、地元住民の方々や地元小学生を招待し、毎年開催しています。屋台や中古重機抽選会などの運営も全て社員で行っており、部門連携・社員成長の場として社員が自主的に取り組めるよう運営しています。

また、メーカー様の展示コーナーや中古重機抽選会も設けており、取引先も含めて携わる方すべてが幸せになれるよう取り組んでいます。地元小学生を対象とした見学会では、普段触れ合うことができない働く車の体験や質問コーナーなどの場を設け、子ども達に社会体験の機会を作っております。



【大間のまぐろ解体ショー】



【無料屋台コーナー】



【高所作業車体験】



【バックホー体験】

主な取組②

地域生産者応援プロジェクト



地域貢献・地産地消の促進のため、雑貨販売部門の陽気屋をメインにSNSで発信、店舗販売に取り組むほか、全社的に消費促進に取り組んでいます。地域でもまだまだ知られていない、たくさんの良い商品や魅力的な人がいることをSNSやブログで発信することで広く知ってもらうきっかけ作りをしています。販売開始から即売となるほどの人気となり、出品者の皆様に高評価をいただいております。この取り組みを通し、生産者様と消費者様のつながりを作ることができ、さらには雑貨屋で地域の生産品を買えるということを知っていただき、今後の運営にもつなげることができました。



【地元農家様の梨の販売】



【新米の販売】



【陽気屋の外観】

会員と連携可能な強み

当社は工事の総合お役立ち業として、工事現場で何でもそろう仕事が進められるように事業展開しております。小売部門「グレース共和」「YOUKIYA」「進盟ルーム白河店」を店舗展開し、SHIAWASE提案業として活動中です。

〒961-0015 福島県白河市田島舘ヶ崎 4 - 1

【H P】 <https://www.kygp.com/>

【TEL】 0248-29-2231

【MAIL】 info@kygp.com (担当：鈴木)





組木屋えんどう

主な活動場所：福島県いわき市



主な取組①

産学官連携による伝統芸能継承への貢献

- ・伝統技術や伝統芸能で培われたノウハウを活かし、環境にも配慮した商品の開発を進めています。
 - ・文化財保護を資する技術の伝承と更新への寄与として、学校等で伝統技能を体感する授業を実施しています。
- 2019年 富岡支援学校中学部 11回
2022年 いわき支援学校高等部 7回
- ・特別支援の生徒さんに自立支援体験型学習を実施しています。
- 2021年 マイ箸づくり サブタイトル：自分で作った箸で給食を食べる

伝統技法



伝統芸能で使うバチ



環境に配慮した新製品開発



生徒が手作した マイ箸



主な取組②

安心安全な地域社会づくりと地域温暖化対策計画

- ・事業継続力強化計画と地域防災啓発に取り組んでいます。
- ・地域に根ざす事業所として、地域行政との連携による社会活動に協力しています。
- ・資源の再利用化による新たなエネルギー化や商品開発に取り組んでいます。
- ・小学校で行う授業（総合学習）でファシリテーターとして寄り添う授業を実施しています。

行政との連携活動



新たなエネルギー化の取り組み



資源を再利用化した商品



小学校で行う総合学習の様子



会員と連携可能な強み

会員と連携して取り組みたい課題

- ・伝統芸能(工芸) 継承修理修復に関する知見
 - ・東日本大震災で得た知識や知恵、体験を活かした講演を国内や海外でも実施
- 【教育機関との連携】
- ・小学校の総合学習での「防災を含めた地域将来の考え方」約8回の実施
 - ・特別支援学校での「地域芸能体験学習や木工技術のレクチャー」1回～8回の実施

- ・国宝など重要文化財修復技術や伝統芸能（工芸）継承に関する意見交換
- ・植林や管理などに関する意見交換
- ・ペレット製造や端材を活用した小規模型エネルギーに関する意見交換
- ・教育の場における出前講座の実施状況や成果、教育機関からの意向などに関する意見交換

〒979-0333 福島県いわき市久之浜町久之浜字北畑田77番地

【HP】 <http://kagu-tategu.com/>

【TEL】 090-1931-8204 【MAIL】 kumikiya@kagu-tategu.com (担当：遠藤)





主な取組

建設現場におけるワンコイン(安価)での 熱中症対策自販機の展開



弊社では総合建設業を営む企業として、建設現場の安全衛生の向上が必須となっております。

その中で、夏期は熱中症のリスクが非常に高いため、各種対策を講じておりますが、一番のポイントとなる現場作業員さんの水分補給について検討を進めておりました。

弊社の協力会（「光建会」）とも協議を進め、安全対策予算の中から、敢えて赤字でワンコイン（例：麦茶であれば定価140円を100円、または50円）と安価にし、手軽に熱中症対策飲料が買えるよう、取り組みを進めております。

2022年は計400本以上の販売と、本自販機を設置した現場では熱中症での事故が発生しなかったため、今後も展開を進めて参ります。



会員と連携可能な強み

- ・ 一級建築士等、技術者が在籍しており、建築に関わることであれば連携がしやすいです。
- ・ 首都圏や仙台の企業とも比較的取引が多く、営業エリアを広範囲に有しています。

会員と連携して取り組みたい課題

地元の子どもたちや、福島の未来のために連携して取り組んで行きたいと考えております。





郡山医療生活協同組合

主な活動場所：福島県郡山市



主な取組①

地域住民と専門職のパートナーシップによる ヘルスプロモーション（健康づくり）活動

福島県からの「健康寿命の延伸」を目指して、地域住民と専門職（医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、介護士など）がパートナーとなり、健康に関する学習や実践を各地で展開しています。特に高齢者のフレイル予防、減塩、生活習慣改善に力を入れたヘルスプロモーション活動をすすめています。「SDGs 学習会」もおこなっており、地域の団体や学校（中学校・高校）から依頼を頂いています。

理学療法士による運動指導



減塩活動



地域住民を対象とした 「SDGs 学習会」の開催



主な取組②

誰一人取り残さない「無料・低額診療事業」



生活保護基準には至らないまでも厳しい経済的事情にある方が、医療機関の受診を控えることがないよう、病院（桑野協立病院）独自の基準を設けて、該当者の医療費自己負担分を減免する事業。（社会福祉法に基づく）

2019年10月からスタートし、2023年3月までにのべ121人が対象となり、外来受診、入院で医療サービスを提供しました。本人からの申請が基本ですが、職員の「気づき」から、生活実態を伺って利用につながるケースもあります。

広報チラシ



病院玄関の看板



会員と連携可能な強み

- ① 講座への専門職派遣
健康づくりをメインとしつつ、医療、介護分野の講義や実践指導などが可能です
- ② SDGs 講座
「SDGs ってなに？」の学習会

会員と連携して取り組みたい課題

- ① 福島県民の健康づくりを推進する活動
- ② 目指すゴールが共通する企業・団体様との実践交流

〒963-8034 福島県郡山市島二丁目9-18

【HP】 <http://www.koriyama-h-coop.or.jp/>

【TEL】 024-923-6212 【MAIL】 sei_onuki@koriyama-h-coop.or.jp（担当：小拔）





主な取組①

ロハス学習（2 学年）



日本大学工学部様と連携し、ロハスについて学び、その具現化を目指しています。今後は、班ごとに計画を立て、調査・作業を進めていきます。



大学の先生からアドバイスを受けるようす



活動計画発表のようす

主な取組②

SDGs 探究活動（1 学年）



福島県庁様、福島民友新聞社様、福島中央テレビ様、JTB様、ふくしまゼロカーボン・トラベラー推進協議会様（順不同）と連携し、SDGs の取り組みや現状と課題について学んでいます。今後は、提供いただいたミッションの解決・提案を目指して取り組んでいきます。



植樹のための事前学習のようす



SDGs 講座のようす

会員と連携して取り組みたい課題

現状と課題からミッション形式で課題をいただく。

- ①中学生で考え、提案する。
- ②提案内容をプレゼンし、評価をもらいながら再検討する。
- ③提案の導入を行う。

①～③を繰り返し、実社会の課題を解決していく活動に取り組むと考えております。





主な取組①

こおりやまSDGsアワード



こおりやま広域圏においてSDGs達成に向け、優れた取組みを行う企業、学校、団体等を表彰する「こおりやまSDGsアワード」を2019年度から実施しています。

身近な地域でSDGsに取り組む企業や学校等を表彰することにより、SDGsの理解・普及を図るとともに、SDGs達成へ向けた取組みを活性化させていくことを目的としています。

また、受賞された企業や学校等の取組みをパネルにし、商業施設や郡山駅で「こおりやまSDGsアワードパネル展」を開催したほか、新聞広告等に掲載するなど、受賞された団体等の取組みを幅広くPRしています。



【表彰式の様子（集合写真）】



【表彰式の様子（事例発表）】



【パネル展（JR郡山駅）】



【パネル展（日和田ショッピングモール）】

主な取組②

パートナーと連携した講座・セミナーの開催



こおりやま広域圏内の企業や団体、学校等に市の職員等が出向き、SDGsの基礎や市の取り組み等を説明する出前講座「SDGsってなに？」を2019年度から実施しており、これまでに110団体・7,163人に受講いただきました。（2023年10月現在）

今年度は、包括連携協定を締結している株式会社セブン-イレブン・ジャパン様と連携し、身近な取組みを紹介する講座も行っています。

また、同じく協定を締結している第一生命保険株式会社様と連携した企業向けセミナーを開催し、企業がSDGsに取り組む理由やメリットを説明したほか、上記アワード受賞団体の事例発表を行いました。



【セブン-イレブン様と連携した出前講座】



【企業向けSDGsセミナー】



【アワード受賞団体の事例発表】

会員と連携可能な強み

本市は、周辺の17市町村で構成する「こおりやま広域圏」全体でSDGsを推進しており、圏域内でSDGs達成に取り組む企業・団体・学校等を表彰する「こおりやまSDGsアワード」を毎年実施しています。

会員と連携して取り組みたい課題

企業や団体の皆様をはじめ、特に金融機関と連携・協奏し、お互いのリソースを活用して、SDGs達成に向けた取り組みを進めていきたいと考えております。





主な取組①

アップサイクル商品の開発を通じた若者による持続的な地域づくりプロジェクト



「お茶を通じて地域を知り、地域と関わる」をコンセプトに、規格外フルーツ、耕作放棄地で自ら栽培したハーブをブレンドしたフルーツハーブティーを製造販売することで、フードロス、耕作放棄地の問題の解決に貢献しています。また、企画から製造販売に県内の大学生、高校生が関わることで、継続的に若者が地域に関わる仕組みを同時に創出しています。商品は 2022年11月5.6日 に新宿御苑にて開催された S D G s 関連のイベント「GTF グリーンチャレンジデー2022」にてお披露目し、県内では同年 11月19日 に観光物産館でのイベントでお披露目、その後随時 EC サイトや県内外のカフェ、セレクトショップでの販売を開始しました。

今年度は 13の生産者(福島市、伊達市、田村市、葛尾村、飯舘村)からフルーツを仕入れさせていただいており、来年は 20 件に増やす予定です。田村市と川内村にて計 3 か所の耕作放棄地で行っているハーブ栽培も来年も継続していきます。活動については主に Instagram 及び note にて発信しており、生産の裏側を消費者が知り、より福島に興味を持つ仕掛けを行っています。



主な取組②

自然の魅力を詰め込む蒸留酒事業



福島県川内村の中心部にある、かつて「薬店の倉庫」であった建物を改修し、クラフトジンなどの蒸留酒をつくる蒸溜所を設立します。「自然の魅力を詰め込む」、「五感の解放」をテーマに、この土地の様々な要素を掛け合わせながら、香りで福島と世界をつなぐ蒸留酒づくりを目指します。

蒸溜所は2024年秋にオープン予定です。

小さな蒸溜所ならではの利点を生かし、小ロットからのオーダーメイド製造も対応可能です。

規格外の余ってしまったフルーツや、ご家庭で栽培したハーブの香りを蒸留酒に移し、オリジナルのブレンドを作成できますので、ご興味のある方はご連絡ください。



会員と連携可能な強み

食品加工、イベントの企画運営、出店等。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・ S D G s 関連の商品を集めたイベント。
- ・ 商品の共同開発。
- ・ 乾燥し、お茶に使用できるような規格外フルーツも県内全域から探しています。





こまがた元気会

主な活動場所：福島県喜多方市

主な取組①

空き家の撤去と更地を利用したマルシェや集いの場づくり



現在は利用されていない空き倉庫を解体撤去してその場所に「こまがた元気マルシェ」(地域農産物のミニ直売所)を作りました。地域の人達の井戸端会議を行う場となりつつあります。その他に空き家をリフォームして更なる集いの場を作る計画も同時進行で進んでおります。



主な取組②

「こまがた元気マルシェ」破棄0(ゼロ)リユース運動



こまがた元気マルシェでは傷のついた野菜やサイズの小さな野菜、いわゆる規格外の野菜を無料でお客様に提供する活動をしています。野菜だけではなく家庭で不要になった植木鉢や農道具なども無料提供しております。自分が使わなくなったものを必要とする人に再利用していただくためマルシェの一角にSDGsブースを設けています。



会員と連携可能な強み

持続可能な地域づくりに向け、遊休農地を活用した地産地消の取組などを進めようとしており、更なる里地・里山の資源を活かした事業経営・起業等に関心のある会員との連携・協力を図りたい。

(※11の目標「住み続けられるまちづくりを」は、都市だけでなく、過疎地域を含む持続可能な地域づくりと理解しています。)

会員と連携して取り組みたい課題

地域資源を活かした事業・活動を進める上でのノウハウや核となる人材が地元には少ないため、外部の力を活用させていただきたいこと。

〒969-3504 福島県喜多方市塩川町中屋沢字田中乙3

【HP】 <https://f-ninaite.jp/job/12927.html>

【TEL】 080-2805-1050

【MAIL】 koma.genki7.7@gmail.com (担当：大平)



株式会社こんの

主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

今すぐできる身近なSDGs



当社の理念でもある「地球環境を最優先に考え行動する」をモットーに社員全員がそれぞれのSDGsに取り組み、四半期ごとに取り組み事例を発表しています。



実際の取組を記録し、可視化しましょう

所属：本社 氏名：

期間：2023年6月1日～2023年8月31日

[illegible]

【社内SDGs取り組み事例】

主な取組②

谷口たかひさ氏おはなし会 I N 福島



環境活動家谷口たかひさ様をお招きして、講演会を開催。地域にお住まいの方の環境意識の啓蒙を図りました。

夏休み！大人も子どももたくさんの人に聞いてほしい。
いま、世界一受けたい授業



おはなし会
in 福島

国連スピーカー
環境活動家

谷口たかひさ氏



今地球で何が起きているか
まずは聞いてみませんか？



2023年7月31日(月)

受付 14:00 講演 14:30～16:30

こむこむ館 1F わいわいホール

福島市早稲町1-1 ※専用駐車場はありませんので公共交通機関でお越しください。

参加無料(ドネーション制) ※全ての参加金は随時、活動資金となります

先着 160名(親子参加可) 事前申込制 申込期間 7/10～26

申込方法 ①Googleフォーム

右記QRコード⇒⇒⇒



②メール

application@konno.gr.jp

※氏名・人数・電話番号を明記

後援： 福島市教育委員会 主催： 株式会社こんの/株式会社アイクリーン

【谷口たかひさ氏お話し会in福島】

会員と連携可能な強み

- ①廃棄物にまつわる地域の社会問題を解決する為のご提案
②地域の食にまつわる困りごとへの解決のご提案

会員と連携して取り組みたい課題

地域の廃棄物削減の為の連携協力

〒960-8032 福島県福島市陣場町2-20
【HP】<https://www.konno.gr.jp/>
【TEL】024-524-2345
【MAIL】m-sawano@konno.gr.jp（担当：澤野）





主な取組①

学生服回収BOXの設置



○ 学生服回収BOXの設置を通じて

学生服回収BOXは、ご家庭で着られることのなくなった学生服を入れていただくためのBOXです。子供の貧困を支援するため、政府（内閣府）が主体でおこなっている「子供の未来応援国民運動」の一環として さくらや いわき店では、まだ着られる学生服の活用のため、学生服回収BOXの設置をおこなっております。

● 学生服回収BOXは、次のように運用されます。

- ・ご協力いただく企業・店舗などに学生服回収BOXを設置
- ・お子様の着なくなった学制服をBOXに入れていただきます
- ・回収した学制服をさくらや いわき店で査定します
- ・査定した額を「子供の未来応援基金」に寄付します
- ・回収された学生服は洗濯、補修等のメンテナンスを行い、新品に比べ10分の1～3分の1程度の価格でリユース品として当店で再販いたします



イオンモールいわき小名浜



イオンモールいわき小名浜・大東銀行 いわき管内に
学生服回収BOXを設置頂いております



主な取組②

ランドセルの再利用へ

○ ランドセルについて

当店へ集められたユーズドのランドセルは、必要とする子供たちへ無償で配布を行っております。

また、ユーズドのランドセルは、海外に送って発展途上国の子供たちへポリオワクチンを提供する協力もおこなっています。思い出の学生服を次の世代に『ボタンタッチ』する架け橋に！また、学生服を通じ物を大切に！（最後まで使い切る）このことを皆様に伝えていければと思っております。

卒業や転校、サイズが合わなくなった・・・など
使わなくなった学生服や体操着も、
まだ必要としている人がいます！

そんな学生服を『さくらや いわき店』に
お持ち下さい！

来春入学を迎えるお子様へ
必要としているお子様へ
無償にてプレゼント



会員と連携可能な強み

いわき市に拠点を持つ企業、店舗のご協力・ご賛同により、「学生服回収BOX」の設置を頂いている。その企業名は・大東銀行 様・イオンモールいわき小名浜 様・パピルス 様（（有）渡辺文具店）である。

会員と連携して取り組みたい課題

多くの企業様にご協力・ご賛同頂き、「学生服回収BOX」の設置箇所を増やし、当店の活動を拡大していきたい。特に、官庁等のいわき市役所、学校、その他の場に「学生服回収BOX」を積極的に設置をしていきたい。





合同会社シナプス

主な活動場所：福島県南会津郡南会津町、只見町

主な取組①

SDGs / カーボンニュートラル カードゲーム研修



- 【町役場向け】 2020年 南会津町役場向け SDGs 研修
- 【社会人向け】 2021年度 只見町社会人教育プログラム 全4回
- 【学生向け】 2021年：只見町 中学生向け 出張授業 1校
- 【学生向け】 2022年、2023年：南会津町 中学生向け 出張授業 4校



【講座の実施風景】

令和4年度 大人のためのSDGs講座
誰一人取り残されない社会をつくらう！

子どもたちが学び取り組んでいるSDGsについて楽しく学べます！
これからの社会で活躍の知恵です。ぜひに参加ください。

開催場所 合同会社 Synapse 竹元 紳一郎 氏
会場 朝日復興センター 2階ホール

参加費 無料！

開催日程

- 第1回 7月7日(木) 18:00~20:00 座学と体験ゲーム
SDGsの基本理念を知ろう
- 第2回 8月4日(木) 18:00~20:00 座学
SDGsの取組事例を知ろう
- 第3回 10月8日(木) 18:00~21:00 ワークショップ
2030SDGsカードゲームを体験しよう
- 第4回 11月10日(木) 18:00~21:00 ワークショップ
SDGsのために行動しよう

※連続して参加していただくことを推奨しますが、単回の参加も可能です。

お問い合わせ・申込み 只見町教育委員会 申込み@町624.jp
電話 0241-82-5320 メール syougaku@town.tadami.lg.jp

【ESD, SDGs 講座チラシ】

主な取組②

みんなの冷蔵庫 / 只見町の間伐材でネームタグ

1. みんなの冷蔵庫

賞味期限切れ近い食品を譲り受け
貧困家庭へ譲渡しています。

(埼玉県草加市にて展開)

現在、企業や自治体と共同運営する候補を探しています。



【みんなの冷蔵庫】

2. 福島県只見町の間伐材でつくる ネームプレート 事業

只見町の間伐材でつくる ネームプレートの販売・
デザインを弊社で作成しました。

製作を只見町の木工職人へ依頼し、只見町への
売上貢献と、森林保全事業への寄付をしています。



【SDGs ネームタグ】

会員と連携可能な強み

① SDGs 教育/推進支援

カードゲーム～SDGコンパスに沿った3年間のプロジェクト推進
まで対応可能。(南会津町、只見町にて、教育プログラムを
展開している。また、企業、学校、自治体 へのSDGs 教育
プログラム提供 100社/機関 以上)

② 地方都市の システムエンジニア支援

システムラボや、エンジニアシェアリング、システム開発支援など、
様々な形で連携が可能。開発実績 20年以上

会員と連携して取り組みたい課題

- ① 地方の企業、自治体における、DX・イノベーションの課題
- ② 地方都市における システムエンジニア不足を解消すること
で新たな付加価値を地方から作っていきけるようにしていきたい。

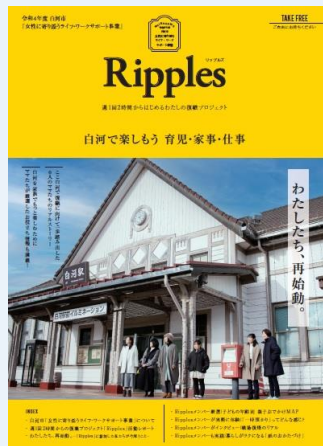




主な取組①

女性に寄り添うライフ・ワークサポート事業

働きたいと考えているものの子育てによるブランクにより就職に不安がある女性などを対象に、就職または再就職への支援を図ることを目的として、「はたらく」に関連するテーマについて参加者同士で話し合う『ママのしゃべり場』、就労相談や求人のあっせん等を無料託児サービス付きで行う『個別相談会』、短時間勤務・ワークシェアリングを取り入れた就労支援モデルの仕組みづくりのための『実証実験』、女性の雇用促進や多様な働き方を推進するための『事業者向けセミナー』などを実施しています。



主な取組②

夏休み 親子で学ぶ環境学習教室



未来を担う子供たちに環境意識を高めてもらうため、企業から講師を招き、工作キットを組み立てながら、暮らしの中のエネルギーや太陽光発電のしくみ、LEDなどについて学ぶ環境学習教室を開催しています。



会員と連携して取り組みたい課題

市民のSDGsへの関心を高めるような広報活動等





主な取組①

社内ゴミの分別・地域清掃活動の実施



社屋内ごみ箱を分別可能な様に増設し、分別による焼却処分のごみの排出量の低減及びリサイクルによる自然環境への負担低減の実現を目指しています。

また、郡山市道路維持課主催の「アイラブロード事業活動」に参加し、地域の道路周辺清掃活動を積極的に実施しています。

社内外において環境へ配慮した活動、取組みを行っています。



【社内休憩スペース設置の分別ごみ箱】

【地域清掃活動実施状況】

主な取組②

社内ウォーキングイベント



社員の一人一人の健康意識向上を目的に、ウォーキングイベントを開催。上位3名への賞品（健康グッズ）や目標歩数（8,000歩）達成者全員への景品の贈呈等、社員が目標を持って楽しみながら参加できるイベントとしました。

このような取組みを軸に全社的に健康経営に取組み、健康保険組合連合会東京連合会より、健康経営への積極的な取組みが評価され、昨年度に引き続き今年度も「銀の認定証」を受理しました。

ウォーキングイベント
Enjoy Walking!
2023

活動期間 2023.10.1 ▶ 10.31

ウォーキング サイクリング スイミング

今回のイベントでは、サイクリングやスイミングでも歩数に換算。
own styleで目標歩数を達成しよう！

目標歩数1日平均8,000歩

目標歩数を達成した方全員に！
1,500円相当の健康グッズを贈呈！

さらに！
合計歩数上位3名へ
高級健康グッズを贈呈！

認定 健銀第 2087 号 (1)

従業員の健康は企業の誇り
活ある職場は従業員の健康づくりから

**健康優良企業
認定証**

セコムエンジニアリング
株式会社 殿
(セコム健康保険組合)

貴事業所は健康保険組合と協力して健康
企業宣言を行い健康経営健康づくりの取
組みを積極的に行っていることを証します

令和5年9月1日
健康保険組合連合会東京連合会
会長 米川 孝

認定期間 令和5年9月1日～令和6年8月31日

【ウォーキングイベント開催ポスター・健康保険組合東京連合会からの「銀の認定証」】





只見町立只見中学校

主な活動場所：福島県南会津郡只見町



主な取組①

服のカプロジェクト

ユニクロによる古着回収プロジェクト「服のチカラプロジェクト」に参加しています。

このプロジェクトは着なくなった服の回収を行い、難民キャンプなど貧困地域で過ごす世界中の人々へ届ける運動です。生徒たちは、中学校や近隣の小学校にもポスターやチラシを配付して協力をお願いし、服の回収に取り組んでいます。

事前講座で服がもっている力や貧困地域の現状などについて学んだことで、プロジェクトに目的意識を持って参加することができています。これからは、身近な地域のことだけでなく世界に目を向けた取組を積極的に考えて実践していきます。



主な取組②

新聞紙バッグ制作および普及活動



日本海側の海岸に漂着したプラスチック類のごみの多さから着想を得て、プラスチック製のレジ袋の使用量削減を目的として、新聞紙を原材料としたエコバッグの作成と普及活動を行っています。

全校生でエコバッグを作成し、協力いただいている町内企業の店舗や福島県消費生活センター主催のイベントなどに活用していただいています。

また、県内のイベントに赴き、制作の講習を行うなどして、NO.12のゴールを意識し、制作物および制作方法の普及を実践しています。



会員と連携可能な強み

当町ではユネスコエコパークにおいて自然の保護保全、調査研究、自然との共生、持続可能な地域社会構築に向けての取り組みを既に行っているため、様々な分野においての知見や研究成果などを通して連携できることと思われます。

会員と連携して取り組みたい課題

再生可能エネルギーや地球温暖化防止、地域内スマートシティの取り組みです。

〒968-0441 福島県南会津郡只見町大字黒谷字上野 3 0 0

【HP】 http://kir523528.kir.jp/?page_id=44

【TEL】 0241-84-2022

【MAIL】 tadami-j@fcs.ed.jp (担当：馬場)





主な取組

児童の農業体験等と地元作物の実食について

児童が地元作物の収穫・見学等の農業体験をし、農家から農業の楽しさや苦勞を学び、健康推進課の栄養士による栄養学講座で、農産物の栄養について学びました。また地元作物を給食により実食し、産地の魅力や理解を深め、食の大切さを学びました。



【きゅうりの収穫体験】

〒960-0692 福島県伊達市保原町字舟橋180番地
【H P】 <https://www.city.fukushima-date.lg.jp/>
【TEL】 024-575-1142
【MAIL】 seisaku@city.fukushima-date.lg.jp（大概）





主な取組

SDGs女研フリマ



すがまプラザ交流センター（※１）において、女性から見たまちづくり研究会（※２）が主催となり、フリーマーケットを開催しました。

- （※１）閉校となった須釜中学校を活用してコワーキングスペースや交流スペース、行政センターの機能を有する施設
- （※２）子育て中の女性を中心とした多世代の女性メンバーにより、女性ならではの視点で日常の問題点や日頃の悩み、子育て支援等を話し合い、村に施策提言を行う会



会員と連携可能な強み

郡山市を中心とした「こおりやま広域圏」に加入しており、圏域全体としてSDGsを推進しています。広域圏事業としてSDGs達成に取り組む企業・団体・学校等を表彰する「こおりやまSDGsアワード」を実施しています。

会員と連携して取り組みたい課題

さまざまな企業や団体の皆様との連携により、それぞれの強みを活かして、SDGs達成に向けた取り組みを展開していきたいです。





田村市

主な活動場所：福島県田村市

12

つくる責任
つかう責任



主な取組①

ぼくの、わたしの、おさがり交換会

田村市復興応援隊が運営する地域交流スペースshipでは、子供服の交換を通して地域や学校の枠を超えた親同士のつながりが生まれ、子育てに関する地元情報や悩みをみんなでシェアするコミュニティ形成を目指し、おさがり交換会を開催しています。

親だけではなく、お子さんにとっても「物を大切にする」という気持ちを育む機会にもなっています。



【会場ロゴ】



【当日の様子】



主な取組②

ワクワクがとまらない 自然とチャレンジがいきるまち 田村市

11

住み続けられる
まちづくりを



17

パートナーシップで
目標を達成しよう



田村市では、令和4年6月に市の最上位計画である第2次総合計画を策定しました。同計画は、市民参画によるまちづくり、SDGsにつながるまちづくり等の視点を持って策定しており、「ワクワクがとまらない 自然とチャレンジがいきるまち 田村市」の将来像のもと、市民と一緒にまちづくりを進めています。



【田村市総合計画】

会員と連携可能な強み

郡山市を中心市とした、17市町村で構成されるこおりやま広域圏の取り組みにより官民連携の素地があるため、SDGs達成に向け、会員の皆様とのスムーズな連携が可能です。

会員と連携して取り組みたい課題

SDGs 17の目標にある、それぞれの課題を解決するために、会員の皆様と連携して進めていきたいです。





特定非営利活動法人チームふくしま

主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

福島ひまわり里親プロジェクト



ひまわりを活用した東日本大震災復興事業です。全国の人々が“里親”となってひまわりの種を育て、採れた種を福島へ送り、その種を福島県内の人々が育て、採れた種を福祉作業所で搾油後、バイオディーゼル燃料に精製し、福島市内を走る循環バスの燃料の一部等に活用します。

日本全国と福島の絆を深め、福祉作業所で働く障がい者の雇用創出や防災教育の推進、「ひまわり結婚式」や「ひまわり甲子園」等のイベント開催を通じて福島県の観光促進に繋げています。また、震災・原発事故についての伝承伝達および防災意識を高めることを目的に、「ひまわり防災検定」を実施しています。



ひまわり結婚式で挙式された新郎新婦



福祉作業所で働く利用者の作業風景



全国の参加者より福島へ届いた種から咲いたひまわり（田村市）



ひまわり防災検定 受験の様子

主な取組②

お互いさまの街ふくしま



「お互いさまチケット」の普及を通じてお互いさまの思いと恩送りの輪を広める活動です。また、就学援助や児童扶養手当、奨学金の受給者を対象に、無料で食料品・日用品を提供する無人型子ども食堂「コミュニティフリッジひまわり」も一環として行っています。

「お互いさまチケット」とは、お客様がチケットを購入する事で、他のお客様が無料または低価格で食事やサービスを受けられる仕組みです。様々な業種で導入されており、利用者と購入者の区別が付きにくく、困窮世帯にも利用しやすくなっています。チケットを通じて子ども食堂や体験の貧困解消、寄付や恩送りの体験にもなり、設置企業・団体側は負担0でSDGsが気軽に表記できる団体や企業の価値の創造ができ、働く人の喜びや採用、職場内、顧客との関係性の質の向上につながります。寄付者はチケットが気になり来店動機やマーケティング、SNS投稿等広告にもつながり、寄付文化向上にも寄与する仕組みです。設置団体や企業、チケット利用者、寄付者、世間の四方よしのモデルとなっています。

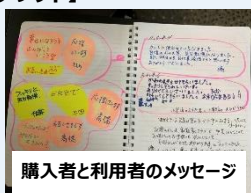
無人型子ども食堂「コミュニティフリッジひまわり」は出入口が電子ロック管理のため、アプリで利用時間に自由に出入りでき、人目を気にせず利用できます。寄付品の陳列や掃除を福祉作業所に仕事として依頼をし、雇用創出に繋げ、福祉作業所が仕事を通じてチェンジャーとして社会課題を解決するメンバーとして活躍しています。そして、福祉作業所のお仕事になるので無人食糧庫・子ども食堂の利用者の皆様が利用しやすい「お互いさまの」ソーシャルデザインの場所です。利用者が自立できるよう、就職情報や相談場所の情報も掲示・発信し、支援しています。

【お互いさまチケット】



導入の様子

お互いさまチケット導入店舗
〈HAPPY HAPPY CURRY様〉



購入者と利用者のメッセージ

お互いさまチケット導入店舗
〈美容室びいす様〉



紹介動画

【コミュニティフリッジひまわり】



室内の様子



利用者、寄付者それぞれからのメッセージ



紹介動画

会員と連携可能な強み

- 福島ひまわり里親プロジェクト…全国から届いたひまわりの種を無料で提供できます。ひまわりを育てることで、社会貢献や福島の復興支援に関わることができます。
- コミュニティフリッジひまわり…視察にお越しいただき、SNS等で発信いただくことでより多くの困窮世帯を支援場所につなげることができます。寄付することによって、困窮世帯や学生に対して支援や社会解決を行うことができます。
- お互いさまの街ふくしま…「お互いさまチケット」の導入店舗への視察やチケットの利用をSNSで発信することを通じて福島県や全国に向けて「お互いさまチケット」の普及活動ができます。また、実際に導入していただくことで、「お互いさまの街ふくしま」の実現に貢献できます。

会員と連携して取り組みたい課題

- 障がい者の雇用創出
- 福島の観光促進
- 防災教育の推進
- 子育て困窮世帯の支援

〒960-8055 福島県福島市野田町6-7-8 ツインコートB103

【HP】 <https://www.sunflower-fukushima.com/index.html>

【TEL】 024-563-7472

【MAIL】 info@sunflower-fukushima.com (担当：山田)





主な取組①

天栄村SDGs宣言制度「てんえいSDGsパートナー」

SDGsを村全体で推進するため、SDGsの取り組みを行う村内の企業や団体、教育機関などを「SDGsパートナー」として認定し、認定証を交付しています。

パートナーの取り組み内容は、村広報誌やホームページで紹介し、取り組みのPRを図っています。



【認定証交付式の様子】



【村広報誌への掲載】

主な取組②

教えてSDGsチャレンジシート

SDGsに関する知識を深め、一人ひとりが自分事として取り組みを実践することを目的として、村生涯学習センター図書室にSDGs書籍コーナーと「教えてSDGsチャレンジシートポスト」を設置し、チャレンジを投稿した方に、村オリジナルSDGs缶バッジをプレゼントしています。



【SDGs書籍コーナー】



【チャレンジシートポスト】

会員と連携可能な強み

SDGs未来都市である郡山市を筆頭とした17市町村で構成する「こおりやま広域圏」に本村も各種事業等に参画しており、広域圏全体でSDGsを推進しています。

〒962-0592 福島県岩瀬郡天栄村大字下松本字原畑78番地

【HP】<https://www.vill.tenei.fukushima.jp/>

【TEL】0248-82-2333

【MAIL】kikakuseisakuka@vill.tenei.lg.jp（担当：吉田）





主な取組

移住・転入者が暮らしやすい福島づくり



福島県に移住・転入した方（主に女性）の転入後の福島での暮らしをサポートしています。移住・転入者の悩みやニーズに対応し、

- 「1.仲間や地域とつながるキッカケづくり（座談会、まちあるきツアー等の開催）」
- 「2.自分らしく働くキッカケづくり（有料職業紹介、WEBライティング、在宅ワークの受注）」
- 「3.福島の暮らしの情報発信（独自WEBメディア「tenten fukushima」の運営）」
- 「4.情報発信と交流の場づくり（県産品ギフトショップ「ent」の運営）」
- 「5.コミュニティづくり（SNSコミュニティの管理運営）」
- 「6.移住・転入者個別のフォローアップ」

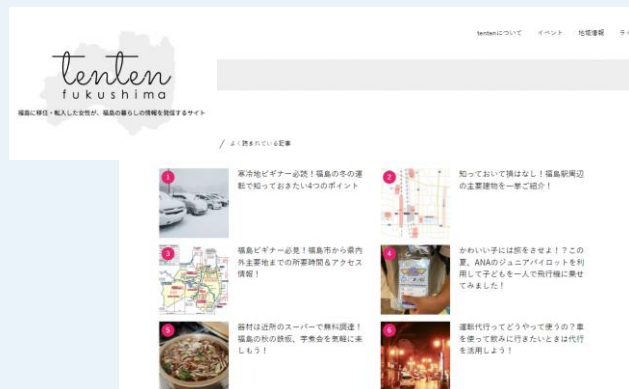
など転入者と地域が繋がるハブとなり、地域とwin-winになる事業に取り組んでいます。



【転入女性の座談会「tenten café」】



【暮らし目線のまち歩きツアー「まちとつながる旅」】



【独自WEBメディア「tenten fukushima」】



【県産品ギフトショップ「ent」】

会員と連携可能な強み

福島県に移住・転入した方のコミュニティ（FBグループ・公式LINE・Instagram）で延べ約1500人の転入女性とつながりがあります。独自のWEBメディアは月間平均1万PV。女性目線・ヨソモノ目線を集めることができることや、移住転入女性へピンポイントで情報発信できるのがtentenの強みです。

会員と連携して取り組みたい課題

tentenのメイン活動である移住転入女性向け座談会「tentencafe」は、利益ででない自主事業として開催しています。この活動を継続するために、パートナー企業さんを募集しています。tentenの活動の趣旨にご賛同いただいた企業さんと一緒に、tentencafeを継続することで、行政だけでなく、民間ベースでも移住転入者をWELCOMEする福島県を作っていきたいです。





主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

「TOHOキッズcaféキャラバン」



「地域社会の輝く未来を担うこどもたち」への支援事業として、県内各地の「こども食堂」へキッチンカーに乗ったキャラバン隊が訪問し、こどもたちの金融リテラシー向上と健やかな成長を支援しております。

【金融・SDG s 教室の開催】

金融・SDG s 教室を開催して、こどもたちに社会に必要な金融の基礎的知識の普及に努める他、SDG s の啓蒙活動を実施しております。

【こども食堂の活動支援】

こどもたちの健やかな成長と明るい将来をコンセプトとしたオリジナルのキッチンカーで、こども食堂を訪問し、お弁当の配付を通じて、食育活動を応援しています。

TOHOキッズcaféキャラバン



主な取組②

「とうほうSDG s サポートサービス」



当行では、お客さまのSDG s への取組みを後押しするため、2021年12月に「とうほうSDG s サポートサービス」を創設しました。お客さまへのヒアリングを通して、SDG s への取組状況や、現状の課題を洗い出し、解決策を銀行の担当者とお客さまと一緒に考えております。

2023年9月30日現在、福島県内を中心に306社からお申込をいただき、231社の宣言書を当行ホームページにリリースしております。

とうほうSDG s サポートサービス



会員と連携可能な強み

東邦銀行グループ全体や外部機関とのネットワークを活用し、課題解決のための多様なソリューションの提供が可能であり、本プラットフォームの会員の皆さまのSDG s 推進をサポートしてまいります。

会員と連携して取り組みたい課題

福島県内のSDG s の理解度・浸透度が課題の1つであることから、理解度の向上・機運醸成に向けた取り組みを目指します。

また、その先にある個別課題の見える化・課題解決に向けたサポートに取り組んでまいります。

〒960-8041 福島県福島市大町3-25

【HP】<https://www.tohobank.co.jp/>

【TEL】024-523-0972

【MAIL】masahiro.sakurai@tohobank.co.jp (担当：櫻井)





一般財団法人 とうほう地域総合研究所

主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

機関誌「福島の進路」による情報発信・情報共有



当研究所の機関誌「福島の進路」において、SDGsに関連する様々な記事を掲載し、読者の皆さまに役立つ情報や企業・団体の先進事例などを発信しています（冊子版・デジタル版いずれも無料）。

- ①生産性新聞との共同取材企画「地域発！現場検証シリーズ」において県内企業・自治体・団体等の取材記事を全国に発信しています。
- ②SDGsなどに取り組む企業・団体等の取材記事を通じて先進事例等を紹介しています。
- ③主要省庁（経済産業省・環境省・復興庁・農林水産省など）や有識者（大学教授・弁護士・税理士など）の寄稿記事を掲載しています。
- ④景気動向調査、人口推計、雇用動向、時事的なテーマでの自主研究レポートを公開しました。



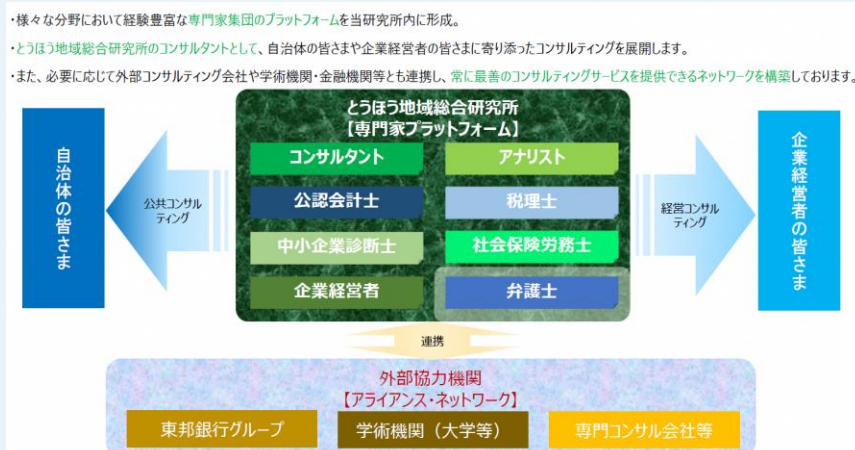
主な取組②

専門家プラットフォームの形成



2022年9月、当研究所所属のアナリストに加え、これまでに企業経営や上場支援・事業再生等に関する豊富な知識と経験を有するコンサルタントや、地元を中心に活動する公認会計士・税理士・中小企業診断士・社会保険労務士、さらには弁護士や企業経営者等が参画し、より専門的かつ高度なコンサルティング事業を展開する「専門家プラットフォーム」を形成しました。2023年、公認会計士や中小企業診断士の有資格者を採用しました。

東邦銀行グループをはじめとした外部協力機関とも連携しながら、より専門的な知見に基づいた高度な経営課題の解決を支援するとともに、自治体や経営者の皆さまの立場に立った地域完結型のコンサルティング体制を構築します。



会員と連携可能な強み

機関誌「福島の進路」の出版事業を通じて、県内の地方公共団体、企業・団体、大学・短大などの産官学連携を重ねてきた実績があり、各種専門家との連携も生かしてSDGsの達成に取り組めます。

会員と連携して取り組みたい課題

機関誌の情報発信力を活かし、先進的な事例の紹介などを通じて、全県的なSDGs推進にかかる意識醸成、具体的な取り組みにかかる気づきや課題の共有などに貢献できるよう取り組みます。

〒960-8041 福島県福島市大町4-4

【HP】<https://www.tohorc.or.jp>

【TEL】024-523-3171【MAIL】sinro-tari@tohobank.co.jp（担当：嵐）





株式会社ナプロアース

主な活動場所：福島県伊達市

主な取組① サークルエコノミーの実現と世界標準化、リサイクル活動の認知活動



ナプロアースでは使用済み自動車を買取り「部品」や「素材」を生産・販売し「リユース」「リサイクル」する活動を進めています。生産した部品は業者向けの販売以外でも個人向け中古部品の市場開拓や、「リユース」「リサイクル」の啓もう活動を行っています。リサイクルされた自動車は重量ベースで99%以上が再資源化され部品以外にも「フロン類」等を法に則って回収し、地球温暖化の阻止にも貢献しています。

ナプロアースではこれらのリサイクルに関する技術の世界標準化を目指し、普及していきます。

地域の小学生・中学生、地域住民の方々へリサイクル工場を知ってもらう活動として「工場見学」「リサイクルまつり」を開催し、のべ2,000人以上の方に参加していただきました。今後も地域の方々と交流しながら工場周辺の清掃活動、慈善活動を通じて新しい価値観を作り出しています。



主な取組② 災害に強いまちづくり支援



東日本大震災において自衛隊と協力し津波による被災車両を撤去しました。また2019年の台風19号による災害の際には水害による被災車両を自治体と協力し撤去のお手伝いを行ないました。

これらの実績により2020年12月に福島県伊達市と「災害時における車両等障害物除去に関する協定書」を締結しました。大規模災害が発生した際には自治体と協力し被災車両の搬送をお手伝いし速やかな復旧のお手伝いが可能となりました。現在、他の市町村にも協定に関して働きかけを行っており、取り組みを広げております。



会員と連携可能な強み

自治体と協力した速やかな災害復旧のお手伝いが可能です。また、地域へのボランティア活動として日本カーシェアリング協会の「被災者向け自動車共同利用カーシェアリングサービス」に協力しています。

さらに、弊社で展開している廃車、自動車買取サービスを通じて自動車リサイクルについての啓蒙も行っており、これらの取組は他会員様と協力、連携ができるものと考えております。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・放置車両等の適正な管理に向けた取り組み
- ・廃車買取の適正な処理に向けた取り組み
- ・鉄、非鉄、プラスチック類の適正な処理に向けた取り組み
- ・自動車リサイクルについての啓蒙活動

これらの課題を解決する一案として弊社が展開している廃車、自動車買取の団体である「廃車のミカタ」をベースとして他の会員様との協力、連携 など

【住所】〒960-0719 福島県伊達市梁川町やながわ工業団地63-1

【H P】<https://www.naproearth.co.jp/>

【TEL】024-573-8091

【MAIL】a-monma@naproearth.co.jp (担当：門馬)





主な取組①

SDGsをより身近に、じぶんごとに

「SDGsってよく見かけるけど何？」という声が多いことから、まずは知ってもらうことを目標に、環境イベント「サステなmeeting」では『SDGsを身近に、じぶんごとに』をテーマに開催しました。町内のゼロカーボンパートナーとなっている企業や団体による取組の紹介のほか、小学生による環境weekでの学習体験発表など、町全体がSDGsをより身近に感じることができイベントとなりました。

また、ホームページではお知らせを掲載する際に、関連するSDGsのアイコンを表示しています。「SDGsって何？」の声に応えるべく、関連するゴールを安易に想像することができる構成にしています。



環境イベント「サステなmeeting」



HP「お知らせ」の一例



主な取組②

ゼロカーボンビジョンの策定

ゼロカーボンの取り組みはSDGsの達成に欠かすことのできないテーマとなっています。檜葉町では、最上位計画に描かれたまちの将来像「笑顔とチャレンジあふれる町へ」を檜葉版SDGsの18番目のゴールと定め、『檜葉町ゼロカーボンビジョン』を策定する際においてもゴールの実現に向け、町全体で取り組んでいくことを掲げています。

また、ビジョン内ではゼロカーボンが達成されたまちのイメージとして「ならは未来予想図2050」を掲載しました。

檜葉版SDGs



檜葉町が目指す2050年のまちの姿
(檜葉町ゼロカーボンビジョンより)



会員と連携可能な強み

官・民いずれも連携を図ることができるため、より多くの知見や意見を反映させることが可能です。

〒979-0604 福島県双葉郡檜葉町大字北田字鐘突堂 5 番地の 6

【HP】 <https://www.town.naraha.lg.jp/>

【TEL】 0240-23-6109

【MAIL】 kurashi-n@town.naraha.lg.jp (担当：大和田)





学校法人成田学園 幼保連携型 認定こども園 希望ヶ丘こども園

主な活動場所：福島県郡山市

2 食育を
ゼロに



主な取組①

食の大切さを知る

食材の栽培を通して野菜がどのように育つかを知り、作る事の大変さや命の存在を意識します。これらの経験をもとに食事の大切さを伝え、廃棄を少なくしようと心掛けています。



👑 おきゅうしょく らんきんぐ 👑

幼稚園発表：8/28 ~ 9/1

クラス	1週間当たりの 一人当たりの残食量	順位	おきゅうしょく たくさん たべなま!!
つばき	211g	7	
きり	135g	8	
うめ	100g	👑	
かえで	128g	5	
さくら	111g	4	
もも	111g	4	
まつ	79g	👑	
たけ	37g	👑	

主な取組②

ジェンダーレスを考える

5 ジェンダー平等を
実現しよう



おとこのこ・おんなのこと表記をせず、区別のない動物のカゴにしています。製作ではおとこのこもピンクを選んだり、おんなのこが青を選んだり好きな色はそれぞれです。





株式会社二嘉組

主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

働きがいのある、働きやすい職場環境づくり



全ての社員が健康で、自身の能力を十分に発揮できるよう、健康経営とスキルアップに取り組んでいます。

<健康経営>

- ・協会けんぽの出前講座で運動機会を創出し、健康増進
- ・郡山市保健師さんによる「ベジライフ推進事業」で食生活改善
- ・ベジチェック測定器、血管年齢測定器、血圧計で健康状態を測定し、数値の話題で職場内コミュニケーションアップ

<能力アップ>

- ・資格や技能の取得を全面的に支援し、取得のための学習や講習会受講は就業時間内に実施可能、学びやすく、働きやすい環境づくり
- ・資格取得者には報奨金、手当の支給など、働きがいのある環境づくり

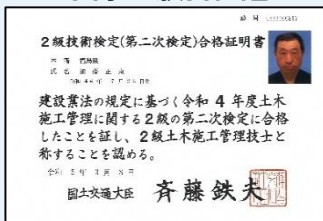
出前講座の様子



ベジチェック測定中



国家試験合格証



資格取得で報奨金



主な取組②

地域社会への貢献



・郡山市民の快適な環境づくりに貢献する「アイラブロード（道路環境美化）事業」で清掃奉仕活動に参加しています。

「アイラブロード事業」清掃奉仕活動



・郡山市の花いっぱいコンクールに、「二嘉組隣組会」として地域住民の方々と一緒に参加しています。

側溝の土砂撤去奉仕作業



・近隣の温泉施設周辺の側溝に堆砂した土砂の撤去清掃奉仕作業を実施し、蚊などの害虫発生を予防しています。

花いっぱいコンクール



花いっぱいコンクール 花苗植え





主な取組①

消灯確認の呼びかけ掲示



退出後の照明機器消し忘れ防止を目的に、
注意喚起の表示を作成しました。

共有スペース、休憩室、屋外エリア等の照明
スイッチ付近に掲示を行っています。



【呼びかけ掲示】

主な取組②

温湿度計による室温管理



エアコンの適正使用を呼びかける際、設定温度だけの
管理では部屋の広さや使用頻度により適切な温度管理
が行えていませんでした。実際の室温が分かるよう、共有
スペースおよび間接部門事務室に温湿度計を設置しま
した。室内温度の目安をあわせて表示することで、みんな
が快適と感じられる温度設定になるよう呼びかけを行っ
ています。



会員と連携可能な強み

- ・ 三極GMPおよびPIC/Sに対応した生産システム
- ・ 環境および労働安全衛生マネジメントシステムの運用 (ISO14001、ISO45001取得)

会員と連携して取り組みたい課題

- ・ 産業廃棄物(特に廃プラスチック類、排水)排出量の削減とリサイクル率の向上





日本クリーンシステム株式会社

主な活動場所：福島県田村郡小野町

主な取組

ペットボトルキャップ支援（ワクチン寄付）



当社及び従業員の自宅から集めたキャップを回収業者に引き渡し、回収業者がキャップをリサイクル素材に換え、売却した利益がJCV（世界の子どもにワクチンを 日本委員会）に寄付されます。

当社は、集めたキャップを大阪本社へ送付し、大阪市内の回収業者へ引き渡しを行っています。



【キャップ回収箱】



【集めたペットボトルキャップ】



【ワクチンのチラシ】



会員と連携可能な強み

環境機械メーカーとして、国内外の一般廃棄物の衛生的な保管や処理の技術や知識を有しております。他の会員様のお困りごとや取組みに対して、お力になれば幸いです。

会員と連携して取り組みたい課題

廃棄物の削減やより安全で衛生的な保管や処理を実現することで、住み続けられるまちづくり、海や陸の豊かさを守ることに貢献したいと考えております。弊社のみでは達成困難な目標であっても、他会員様と連携・協力することでイノベーションが生まれることを期待しています。

〒963-3314 福島県田村郡小野町塩庭字向永志田 3 - 6 7

【HP】<http://www.jcs-co.com/>

【TEL】0247-72-2900

【MAIL】yamanobe@jcs-co.com（担当：山辺）





主な活動場所：福島県郡山市

15 緑の豊かさ
を
増やそう



17 パートナースHIPで
目標を達成しよう



主な取組①

ひろえば街が好きになる運動

「“ひろう”という体験を通じて、“すてない”気持ち育てたい。」

そんな願いのもと、2004年から始めた【市民参加型の清掃活動】です。福島県内はもちろん全国各地のお祭りや催事のなかで開催しております。

単にゴミを拾う活動ではなく、街に落ちているゴミを拾うことで、ポイ捨てなどのマナーや街の環境美化について考えていただくきっかけとなることを目的に行っています。

具体的な取り組み方に関しては、JTのHPより今後予定の清掃活動を案内しており、予約不要で当日参加することが出来ます。



主な取組②

Rethink Creator PROJECT

10 人や国の不平等
をなくそう



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナースHIPで
目標を達成しよう



「Rethink Creator PROJECT」は、これからの地域に必要な「自ら考え、発信することができるクリエイター」を“学び”と“挑戦”、“実践”を通して日本中に創出していくプロジェクトです。

プロジェクトのキーワードである「Rethink」とは、身近なことについて少しでも視点を変えて考えることで、日常の中にある魅力を再発見することです。そして、「Rethink Creator」は、身近な暮らしの中にある魅力を見つけ、それをクリエイティブに発信できる人のことです。

参加に関してはHPよりお申込み可能で、今後の開催情報も発信中です。将来クリエイターになりたい人、デザインに興味があるけど、ハードルが高いと感じている人はぜひご参加ください。

また、右の写真は郡山セミナーでの風景と、ご参加いただいた方々で作成したポスターです。



会員と連携可能な強み

「ひろえば街が好きになる運動」をイベントにて展開させていただいております。他の会員と連携しながら街の美化活動、コミュニケーションの活性化（人と人が繋がることのできる機会、場所作り）などの取り組みを行うことができます。

ごみ拾いをするという目的だけでなく、他人と繋がることのできる素晴らしさも感じていただければと考えております。

会員と連携して取り組みたい課題

私たちJTは、福島県の皆様に「心の豊かさ」をご提供したいと考えております。食品ロスを減少させるための取り組みは継続しておりますが、食品に限らずリサイクルというものを大きな概念でとらえた取り組みも検討中です。

例えば、加熱式たばこリサイクル箱を専門店様に設置し、JTが回収することは実走中です。会員の皆様と一緒に、マルチステークホルダー・パートナーシップ構築の場で、様々なアイデア実現に向けて邁進できれば幸いです。

〒963-8811 福島県郡山市方八町2-1-12

【HP】 <https://www.jti.co.jp/index.html>

【TEL】 024-911-7120

【MAIL】 shoya.takeda@jti.com (担当：竹田)





野木沢地区自治協議会

主な活動場所：福島県石川郡石川町

主な取組①

交通事故啓発活動（3-6）



野木沢地区内交通死亡事故0件を目指しています。

1. 通学路に標識設置しました。
2. 国道118号線にて啓発活動を行なっています。



通学路スピード落せ看板設置



国道118号線にて啓発活動

主な取組②

人権啓発活動（4-7）、防災訓練（11-b）



小学校にて人権教室を実施しました。
災害リスクの減らすための防災訓練を実施しました。



人権について啓発活動



須賀川広域消防団員から「土のう」の積み方指導

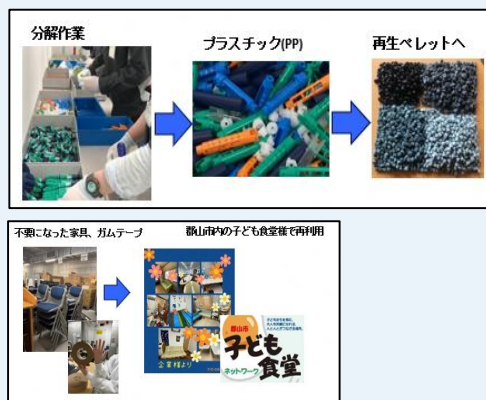
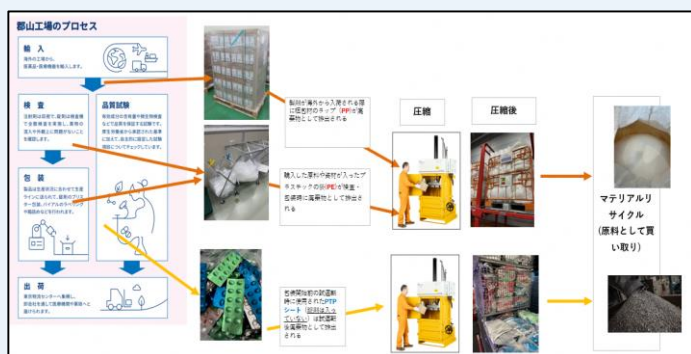




主な取組①

廃棄物は宝物、マテリアルリサイクル、再利用化

工場から排出される産業廃棄物の量の削減を図り、そしてその処分方法を見直し、焼却している廃棄物はサーマルリサイクルへ、サーマルリサイクルはマテリアルリサイクルへ、マテリアルリサイクルは再利用への移行を進めています。廃棄PTPシートはアルミペレットに、廃棄プラはプラスチックペレットにマテリアルリサイクルが実現しています。海外からの輸送に使用し役目を終えた木製パレットは、再利用される企業様に無償提供、もしくは再生パレット製造販売を行われている企業様に有価物として売却し、木製パレットの再利用を行っています。不要になった家具等は郡山市内の子ども食堂様や企業様に再利用して頂きました。また従業員が工場内で使用したシューズは、ケミカルリサイクルをしています。



主な取組②

再生可能エネルギーの利用の促進



2000年代より省エネルギー活動に取り組み、事業活動によるCO2の排出量削減に取り組んでいます。2013年よりグリーン電力証書システムに参加し2016年に電力の再生可能エネルギー化100%を達成、続いてグリーン熱証書の購入契約を締結し、2018年に郡山工場におけるCO2排出量ゼロを実現しました。

2020年7月にオンサイトPPA(*1)を活用し太陽光発電設備を導入、発電した電力を自家消費し環境負荷を低減しています。太陽光発電でカバーしきれない部分の電力はトランキング付きFIT非化石証書を組み合わせた電力を使用し、郡山工場のオペレーションで使用されるエネルギーの100%再エネルギーを継続しています。

(*1) オンサイトPPA：発電事業者が、需要家の敷地内に太陽光発電設備を発電事業者の費用により設置し、所有・維持管理をした上で、発電設備から発電された電気、需要家に供給する仕組み。(維持管理は需要家が行う場合もある)



会員と連携して取り組みたい課題

- ① 未使用廃棄物の再利用、再生化（自社で再生可能は不可だが、他の業界では利用できそうなマテリアル）
- ② 更なる再生可能エネルギー化、省エネ化





主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

『「野村まなぼう教室」サイコロゲームで輸入体験！』を実施



福島県民の金融リテラシーの向上に積極的に関わり、「貯蓄から投資を通じた資産形成へ」の流れの推進に貢献したいと考えており、小学生から大学生・教員、大人まで幅広い世代に対し金融・経済教育をご提供しております。

今年の夏休み期間には、小学校4年生～6年生とその保護者を対象に金融経済教育プログラム『「野村まなぼう教室」サイコロゲームで輸入体験！』を実施しました。サイコロを振るごとに為替レートが変動する中、実際に「輸入」する立場を体験して、「円高・円安」を学習するゲームを行いました。



会場の風景



主な取組②

「こどものみらい古本募金」への協力



「こどものみらい古本募金」は、内閣府等が支援する「子供の未来応援基金」に読み終えた本を寄付する仕組みであり、野村グループでは2018年から全国の支店に古本回収ボックスを設置して協力しています。

国内における貧困の連鎖の解消を目指し、「子供の未来応援基金」を通じて、子ども食堂や学習支援など、子どもたちに寄り添い活動している団体を応援しています。



古本回収ボックス





株式会社福産建設

主な活動場所：福島県石川郡石川町

主な取組①

地域貢献ボランティア



①地域貢献ゴミ拾い

年1回、地域の道路周辺のごみ拾いボランティアを実施しています。毎年地元で開催される祭りの期間に合わせ、4月頃に石川町内の道路周辺に捨てられたごみを収集・分別して廃棄し、美しい道路の維持に貢献しています。



社員・協力業者と連携して、空き缶・ペットボトル・可燃ゴミなどを分別しながら収集・廃棄しています！

②介護福祉施設ボランティア

毎年10月に、年一回に地域の福祉施設整備ボランティアに取り組んでおります。地域周辺の5つの福祉施設に各チームが訪問し、施設の要望に合わせ、除草や剪定の作業を実施しています。



施設のご担当者様の要望に合わせた実施内容ですが、例年庭木の剪定、草刈り、側溝清掃などを行っています。

主な取組②

現場における快適トイレの推進利用



現場では男女が平等かつ清潔な環境で「快適トイレ」を利用できます。この設備を発明・提供するメーカー、予算検討・使用許可を円滑に進める発注者、サービスを使用する施工者全員が連携することにより、素晴らしいトイレが利用できるので。快適トイレは代表的な例ですが、建設業界で働く人たちは日々、より良い現場環境を追及して様々なイメージアップを図っています。



こちらの現場では、男女トイレに仕切りが付けられ、また、一般の方（行人）でも利用できるように、貼紙などの工夫が施されています！
快適トイレ内部は写真ではわかりづらいですが、とても広くて洗面台も付いています。

主な取組③

ソーラーパネル・LED電灯の設置



①太陽光発電の設置

2016年より、当社では太陽光発電を導入しております。太陽光発電のソーラーパネルを導入し、当社での電力は自家発電で賄っており、二酸化炭素排出の減少にも貢献しております。



太陽光発電のソーラーパネルを設置し、自家発電を実施しています。

②LED電灯の設置

当社はLEDの電灯を使用しており、省電力かつ高寿命のため、電灯の交換の頻度を減らし、廃棄物の減少に取り組んでおります。



LED蛍光灯を導入し、産業廃棄物の減少に取り組んでいます。

会員と連携可能な強み

- ①環境活動について、事務所・建設作業現場にて取り組んでいるので、実践的な情報を共有できます。また、建設工事では工事成績点数アップにもつながるように写真管理をしているので活動内容が見える化になっています。
- ②少人数かつ、管理業務と両立して活動に取り組んでいるので取り組みやすいものに特化しています。

会員と連携して取り組みたい課題

私たち、他の会員が取り組んでいるSDGs活動を共有・発信しながらまずは周辺地域、叶うのならば福島全体、日本中にSDGsや環境活動を浸透させ、良い意味で「SDGs」の輪の中により多くの人を巻き込みたいです。
一人ひとりが責任を持って大小関係無く、人のため、地球のために何かに取り組む心が宿ることを望んでいます。

〒963-7808 福島県石川郡石川町大字双里字桜町20番地

【HP】 <http://fukusan.biz/>

【TEL】 0247-26-3355

【MAIL】 info@fukusan.biz (担当：佐々木)





ふくしまSDGsネットワーク（FSN）

主な活動場所：福島県全域

主な取組①

SDGs 出前講座の企画開催、講師の派遣



- (1) 学校、企業、市町村向けSDGs 出前講座の企画と講師の派遣
- (2) 高等学校からの依頼に基づく、「探究の時間」を活用したSDGs の学びについての企画提案とコーディネーション、講師の選任と派遣

【SDGs 講演会—講師の派遣】



【中学校で開催したSDGs 出前講座】



主な取組②

会員活動の支援と連携



- (1) 会員の活動の支援、サポート
会員が行うSDGs 活動やブース出展などの支援、サポート
- (2) 会員が行うSDGs に関する、福島県内における調査の支援
- (3) ESD活動の企画と実施

※ ESDとは、Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）のこと



【エシカル消費活動（SDG 12）応援】



【会員のブース出展支援】

会員と連携可能な強み

- (1) SDGs セミナー、勉強会、講演会などへ講師の派遣ができます。
- (2) 主に、企業のSDGs 活動に関するサポートができます。
- (3) SDGs に関わる多様なネットワークと人脈があります。

会員と連携して取り組みたい課題

県民・市民の方とは・・・

SDGs を互いに教え合い学び合いたいです。

NPO等諸団体の方とは・・・

活動の中にSDGs の17の分野をどのように取り入れるか、一緒に考えたいです。

企業の方とは・・・

SDGs Compas sに基づく経営計画を、一緒に作りたいです。

行政の方とは・・・

SDGs による地域づくりを、一緒に進めたいです。

みなさんと・・・

SDG 17：パートナーシップで目標を達成しようを、一緒に実践したいです。

〒963-8835 福島県郡山市小原田2-19-19

【HP】 <http://www.utsukushima-npo.jp/fukushimasdgsnetwork/index.html>

【TEL】 024-953-6092

【MAIL】 sdgs@utsukushima-npo.jp（鈴木）





ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム

主な活動場所：福島県全域

17 パートナリングで
目標を達成しよう

主な取組①

ふくしまSDGsプロジェクト

2021年8月、ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム（日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島県ユニセフ協会、福島大学、JAグループ福島、事務局・福島民報社）を立ち上げ、ふくしまSDGsプロジェクトを始動しました。

SDGsに対する認識を高め、さらなる行動の活性化を支援し、古里ふくしまで一つでも多くのゴールズを達成することを目標に活動中です。SDGs出前授業の開催をはじめ、SDGsポスター、SDGs未来新聞の募集・発表など、小・中・高校を中心にSDGs教育に主眼を置いた活動を展開中です。ポスターや未来新聞などは多数の作品が寄せられ、公式サイトにすべて掲載中です。また、年度末には1年間のプロジェクトの活動・新聞記事などを小冊子にまとめ、県内すべての市町村、小・中・高校、大学に無料配布しています。

SDGs関連ニュースを公式サイトに掲載しているほか、小中学校などを対象にSDGsの出前授業も積極的に展開しています。

SDGsポスターと未来新聞の贈賞記

SDGsポスター、未来新聞

最優秀の2人たえる



SDGs関連ニュースの紹介

SDGsニュース



新聞紙上での プロジェクト活動紹介



公式ホームページ



主な取組②

SDGsへの産官学の出組を紹介する小冊子の発行及び無料配布

年度末に県内の企業・団体、学校などのSDGs活動をまとめた小冊子を発行し県内の全小中学校、高校、大学に無料配布しています。

公式サイトに無料ダウンロードできるPDF版を掲載し、教育機関でも活用や閲覧を促しています。小冊子はA4版約30ページ、フルカラー。

「ふくしま みんなのSDGs」発行



会員と連携可能な強み

さまざまな企業・団体に「ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム」に賛同、協力してもらうことで、企業と企業、人と人を繋ぎます。誰一人取り残さず、いつまでも笑顔が広がる福島を共に育んでまいります。

会員と連携して取り組みたい課題

多くの企業・団体に本コンソーシアムに参画してもらい事務局がその活動を周知します。教育機関と連携して県内の子どものSDGsへの理解を深めることで、福島県のよりよい未来づくりの後押しをします。

〒960-8068 福島県福島市太田町13-17（事務局：福島民報社内）

【HP】 <https://sdgs.fukushima.jp/>

【TEL】 024-531-4161 【MAIL】 narita@fukushima-minpo.co.jp（担当：成田）





主な取組①

地域マネジメント学科有志による「キクラゲを通して、
福島環境、農業、未来を考える」プロジェクト



ふくしま環境フェスタで、私たちは、2つのことを企画し、実践しました。

①福島の良い海を守る上で森林が大切であること、原子力発電所事故の影響で、しいたけの原木生産が大きな痛手を被っていること、しいたけ生産が伸び悩む中で、食べる漢方と言われるきくらげ栽培が福島県の地域活性化の切り札の一つとなる可能性があることを分析し、ポスター7枚を展示しました。



②知名度がまだ高くないきくらげを知っていただくため、菌床栽培中のきくらげに触れる機会をもち、また福島県西会津産のおいしいきくらげを販売しました。ワークショップ参加者からは、「ポスターをみたが、地域のことをよく考えていて大変勉強になった」、「きくらげが健康にも良いことがよくわかった。買います」等の反響がありました。

主な取組②

食物栄養学科によるサイエンスカフェ「Nutrition Cafe 福島」の企画、実践



- ・食や栄養に関するさまざまな分野で活躍するゲストを迎え、地域の皆様と食べものや栄養についてお茶でも飲みながら気軽に語り合うことを目的として本イベントを企画しました。
- ・本イベントを通して、参加者の皆様に「食にまつわる科学や栄養」に対して興味を持っていただけるようなテーマを設定し、ゲストのトークや体験コーナー等を企画しています。
- ・本プロジェクトに取り組む学生が、将来、栄養士として多くの一般市民の健康維持に貢献できるよう、「食」や健康を取り巻く環境の問題を科学的に追究し、論理的に思考する能力をもつ人材を育成することも目指しています。



会員と連携可能な強み

SDGsに関連するシンポジウムやセミナー、イベントへの参加などです。

〒960-0181 福島県福島市宮代乳児池1-1

【HP】 <http://www.fukushima-college.ac.jp/>

【TEL】 024-515-3505

【MAIL】 tsunoda.hitoshi@fukushima-college.ac.jp (担当：角田)





主な活動場所：福島県内全域



主な取組①

「食と放射能に関する説明会」の開催

食と放射能に関する「素朴な疑問」や「再確認したいこと」、震災・原発事故からの復旧・復興が進む「ふくしまの今」について知りたいことなど、県民が抱える疑問の解消を図り、正確な理解及び行動につなげられるよう、大学教授や専門家などによる「食と放射能に関する説明会」を開催しています。募集対象も子育てサークル、幼稚園・保育所・学校などの保護者会、町内会、サークル、職場研修など幅広く対応し、県民の不安に寄り添った活動を行っています。



【食と放射能に関する説明会の様子】

主な取組②

「猪苗代湖漂着水草回収ボランティア」への参加



「目指せ水質日本一」を目標に非営利活動法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議が毎年主催する、猪苗代湖漂着水草回収除去事業に協会加盟の各社が積極的に参加することで、猪苗代湖の環境保全に協力しています。



【猪苗代湖水草回収の様子】

会員と連携可能な強み

食と放射能に関する説明会の開催について、他の会員にも呼びかけることで大きな連携がとれると思います。

会員と連携して取り組みたい課題

福島県総合防災訓練への参加について情報をお願いしたい。

〒960-8132 福島県福島市東浜町22-2

【HP】 <https://fukukankyo.jp/>

【TEL】 0246-36-8558

【MAIL】 htb-on@koutou-biken.co.jp (今野)





主な取組①

やさしい日本語普及促進事業



福島県から委託を受け、外国人とのコミュニケーションツールのひとつとして「やさしい日本語」の普及に努めています。普及のために「やさしい日本語セミナー」「日本人と外国人がともに学ぶ防災講座」等の各種講座を実施しています。



【防災講座の様子】



【「災害時に役立つもの」のグループワーク】



主な取組②

外国人のための日本語スピーチコンテスト



県内在住外国人を対象とした日本語スピーチコンテストを10月28日（土）に実施しました。県内3会場で行い、9か国16人の外国人が出場し、福島県で言いたいこと・思うこと・考えることをテーマに日本語でスピーチしました。コンテストを通して多くの県民が外国人の母語以外でのコミュニケーションの有効性を知り、やさしい日本語の普及と身近な国際交流の契機となることを目的としています。



【スピーチコンテスト本選出場者】

会員と連携可能な強み

外国人を雇用している企業での社内コミュニケーションや外国人従業員向けの業務マニュアル、外国人への接客、災害時での避難方法の周知等、やさしい日本語を取り入れることについて提案することができます。

会員と連携して取り組みたい課題

やさしい日本語は外国人にわかりやすく日本語を伝えるために考えられたものですが、日本人に対しても活用できます。日本人も外国人も住みやすい社会をつくるため、当協会が提供できることを共有していきたいと考えています。





主な取組①

福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会の運営

「再生可能エネルギー先駆けの地」を目指して、再生可能エネルギー関連産業のネットワーク構築をはじめ、人材育成、研究開発、事業化、販路拡大、海外展開を総合的・一体的に支援しています。

福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会の運営を通じて企業間のネットワークを構築するとともに、各分科会（太陽光・風力・バイオマス・水素・エネルギーネットワーク）ごとにセミナー・マッチング・現地視察を開催して情報共有や再エネ分野への新規参入を図ります。

【バイオマス分科会現地視察】



【水素分科会セミナー】



主な取組②

事業化プロジェクトの創出

再エネ研究会の会員企業を構成メンバーとする、新技術・新製品の開発や新たなビジネスモデル等のプロジェクトを推進する事業化ワーキンググループを設置し、集中的なコーディネートにより事業化プロジェクトの創出を図ります。

令和4年度は新たに2つのワーキンググループを立ち上げました。

【チームやぶき 水素関連産業新規参入WG】
(令和4年5月31日設立)



【サステナブル・ソーラーふくしま】
(令和4年8月31日設立)



会員と連携可能な強み

再生可能エネルギー分野への新規参入や事業拡大を考えている会員に対して、当所がこれまで蓄積してきたノウハウを活用して、それぞれのニーズに応じた支援を行うことができます。

会員と連携して取り組みたい課題

再生可能エネルギーに対する会員の考えや取組方針等についての意見を伺い、当所の今後の業務に活用してまいりたいと思います。





主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

スポーツからはじめる共生社会実現プロジェクト (パラスポーツ出前講座)



県内の学校や総合型地域スポーツクラブ、地域公民館、福祉事業所、地元企業、地域団体等特定の対象を絞らず、全ての団体からの要望に応じて、ボッチャ、車いすバスケットボールなど様々な競技の体験教室や講演からなる出前講座を実施しています。

実施にあたっては、東京2020パラリンピックボッチャ競技日本代表監督の村上光輝氏（福島市出身）を事業全体のコーディネーターとして、ボッチャを始めとした各種競技の講師として活動いただくほか、競技に応じて県内ゆかりのアスリートや関係者等を講師に迎えながら行います。

（例）豊島英氏（男子車いすバスケット元日本代表）

取組を通じたパラスポーツの魅力発信をきっかけに、誰もがいきいきと暮らしていける共生社会の実現を目指します。

【出前講座の様子】



主な取組②

スポーツからはじめる共生社会実現プロジェクト (パラスポーツ用具等貸出)



パラスポーツをより多くの方に身近な場所で触れてもらえるよう、ボッチャ競技セット・競技用車いす・タンデム自転車等を始め競技用具の貸出を行っています。【対象：個人・団体誰でも】

障がいがある方がスポーツを始めるきっかけとなるよう、個人の障がい特性や希望に応じた用具の貸出を行うほか、障がいがない方にもより深く体験してもらうため、上記出前講座の実施と合わせた用具の貸出を行います。また、各種イベント等において主催者の要望に応じて競技用具を貸し出します。

（用具貸出のみならず、ブース運営等も対応可です。）

【競技用車いす】



【ボッチャ競技セット】



【タンデム自転車】



会員と連携可能な強み

「パラスポーツ＝誰でも楽しめるスポーツ」という利点を生かし、本協会の出前講座をはじめとした事業が、SDGsを考えるきっかけづくりや、地域での交流の輪を広げるための有効なツールとして活用できます。

会員と連携して取り組みたい課題

性別や年齢、障がいの有無等に関わらず、同じ地域に属する人々の誰もが一緒に楽しみ合うパラスポーツ大会（ボッチャ等）の将来的な開催などに向けて、関係団体の連携を強化していきたいです。

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16（福島県スポーツ課内）

【HP】 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fsad2011/>

【TEL】 024-521-7875

【MAIL】 para-sports@pref.fukushima.lg.jp（担当：渡邊）





福島県商工会女性部連合会

主な活動場所：福島県福島市

12 つくる責任
つかう責任



主な取組

レジ袋削減「エコバッグ作成」

ごみの削減や、それに伴う二酸化炭素などの温室効果ガスの削減、レジ袋の原料となる原油の節約（資源保護）などを目的に、掲示期間終了したポスターやカレンダーを利用したエコバック作成を推進しております。

福島県商工会女性部連合会役員や各商工会女性部長が講師となり、女性部員や地域の方へ作り方講習会を開催したり、YouTube で作り方の配信を行い広く周知しています。

作成したエコバッグは、レジ袋の代わりに各自の店舗でご希望のお客様へ商品を入れてお渡しし大変好評を得ております。



【エコバック講習会風景】



【エコバック講習会風景】



【完成エコバッグ】



【完成エコバッグ】



【完成エコバッグ】

会員と連携可能な強み

県内には88商工会があり、エコバッグ作成も県内商工会女性部員を中心に広く周知し活動しております。

会員と連携して取り組みたい課題

ゴミ減量化やリサイクルなど環境に配慮してまいります。

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号コラッセふくしま9階

【HP】<https://f.do-fukushima.or.jp/joseibu/>

【TEL】024-525-3411

【MAIL】soshikishien@do-fukushima.or.jp（担当：佐藤）





主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

適切な森林整備に向けた計画の作成

市町村が行う森林整備に関して、森林の現地調査等を踏まえ、その森林に適した森林整備について計画を作成しています。この計画を基に、林業事業者が森林整備を行うことにより、持続可能な森林の経営に寄与しています。



整備された森林



森林整備により伐採された木材



主な取組②

福島県緑の少年団大会

県内の緑の少年団が一堂に集まり、これまでの緑化活動の実績の発表や交流活動を通して相互に友情と連帯を深め、豊かな人間性と奉仕の精神を培うとともに、緑を愛し、守り、育てる心を養うことを目的に開催しています。



活動発表



自然観察



丸太切り



薪割り



主な取組③

福島県緑の募金学校緑化活動促進事業

県内の学校における緑化活動を促進するため、緑の募金を活用して助成金を交付しています。上限は1校あたり2万5千円で、対象は緑化木や種苗等の経費などです。



学校花壇やプランターに花苗植え



主な取組④

きのこ菌株の遺伝資源の保存

郡山市にある福島県林業研究センター及びきのこ振興センターでは、県内外各地から野生きのこの菌株を収集し、きのこ振興センターで永年的に保存しています。

この取組により、生物多様性の損失を阻止します。



継代培養による
きのこ菌株の保存



フリーザー



菌株の保存状態

－ 8 5℃のフリーザーを用いたきのこ菌株の保存





公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター

主な活動場所：福島県二本松市

主な取組①

未来館フェスティバルの実施



未来館フェスティバルは、男女共同参画社会を推進するための活動への県民の皆様の主体的な参画を促進するとともに、男女共同参画社会を目指す団体・個人等の活動・取組発表の機会や県民相互の交流及びネットワーク形成を目的に開催しています。

今年度は、シンボルイベントにジェーン・スーさんをお招きし、「私の居場所の作り方」をテーマにお話いただきました。

シンボルイベント



交流会



県民参加企画イベント



主な取組②

広報誌未来館NEWSの発行



当センター広報紙「未来館NEWS」は、センターの事業の紹介をはじめ、県民の皆様が男女共同参画について理解が深められるよう、身近に感じるテーマを選び、分かりやすい紙面となるよう努めています。

県内外の関係機関への送付、当センターホームページ、SNSに掲載し、たくさんの方が手軽に目にするように発信しています。

令和5年度未来館NEWS 85号



会員と連携可能な強み

社会情勢の変化に伴い多様化する課題・ニーズに応え、多角的な視点からテーマを選定して、各種講座やイベント等の事業を実施しています。

また、男女共同参画の視点をもって多様な分野で活躍している県民や団体等が、相互に交流、連携、協力するネットワークづくりを促進するほか、県内の男女共同参画関連団体の育成を支援するための事業を実施しています。

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

【HP】 <https://www.f-miraikan.or.jp/>

【TEL】 0243-23-8303

【MAIL】 mirai@f-miraikan.or.jp (担当：熊坂)





福島県立あさか開成高等学校

主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

WITH（一緒に）♥ Take Action!を合い言葉にした活動
「ふくしまゼロカーボンへの挑戦!」

地球的課題であるカーボンニュートラル実現のため、課題を「自分事」として考え、行動しています。毎月17日(いいなの日)前後を「SDGs Day」として、一人ひとりが具体的に取組むことができる行動を呼びかけたり、各委員会で取り組んでいるSDGs活動について、「SDGsアクション宣言」をしりすることで学校全体で取り組んでいます。環境学習で福島県はごみ排出量が全国ワースト2位と知り、サーキュラーエコノミーの重要性も痛感しました。いわき市の「オーガニックコットン圃場」での畑作業(種まき・除草・支柱立て・収穫)と「古着倉庫」での仕分け作業の手伝いをしています。そして、自分たちに何ができるか考え、学校でも「エシカル消費啓発活動」「子ども服回収」「オーガニックコットン栽培」や「ごみ減量のためのポスターや動画」「SDGs新聞・ポスター」の制作、「寄付つきクッキーの販売」も行っています。



「ファッションと環境問題」
サーキュラーエコノミーを学ぶ



指1本でできる節電!呼びかけポスター



子ども服回収ポスター
ザンビアの孤児院に寄付



ふくしまエシカルクッキー
「浜・中・会津」の魅力とおいしさを発信!!



主な取組②

WITH（一緒に）♥ 社会と協働するローカルSDGs実践
福島ならではの『山の学校』・『水環境保全活動』プロジェクト



『山の学校』ではNPO団体(障がい者就労支援事業所)と環境研究者、さらに企業や地域の方々と高校生が一緒に、よりよい社会について学んでいます。「山の農園」や「コミュン福島」を会場に、フィールドワークや講義により、里山や森林保全、気候変動などについて学び、「環境」「平和」や「働くこと」についてのグループディスカッションから対話的に学びを深めています。今年度は、「時に先生・時に生徒」をコンセプトに高校生が「防災・減災」についての授業を行い、震災の記憶と教訓を県内外の方に発信しています。『猪苗代湖水環境保全活動』では多様な人との協働により、福島県の宝である「猪苗代湖」の課題を解決していくことの重要性や魅力を発信していく必要性を実感しています。持続可能で豊かなふくしまの実現に向けて、みんなで一緒に活動しましょう! これからも様々な人との協働の中で、新しい価値を創造していきます。



「山の学校」高校生が先生
みんなで学びます



「山の学校」フィールドワーク
森林管理を学んでいます



「猪苗代湖水環境保全活動」
漂着水草回収



「水環境保全活動」環境ワークショップ
洗剤がいらぬエコたわし(指編み)

会員と連携可能な強み

- ① 福島県の役に立ちたい!! 人や地域、社会貢献したい!! ボランティア精神が旺盛です。
- ② 1人からグループ、委員会、部活動、講座、クラス、学年、学校全体とニーズに対応できます。
(自分の足元からできることを活動しているのでマッチングできれば協働できます。)

会員と連携して取り組みたい課題

福島県の魅力発見PR活動、地域の課題探究活動、地域のグローバル化に関する活動
みんなで「ふくしまの未来のために!」一緒に始めませんか。

〒963-8018 福島県郡山市桃見台15-1
【HP】 <https://asakakaisei-h.fcs.ed.jp/>
【TEL】 024-932-1714
【MAIL】 asakakaisei-h@fcs.ed.jp (担当: 目時)





福島県立福島西高等学校

主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

授業「総合的な探究の時間」での取組



毎週水曜日の6時限目に、全校生がSDGsをテーマに17のグループに分かれ、3年間通して探究活動を行っています。

授業内に組み込まれていることから継続性があり、主体的・対話的で深い学びにつながっています。また、特定の生徒だけでなく、全校生が取り組むことにより、より多様な意見を反映させながら探究活動を行うことができます。

調べ学習や課題解決学習だけでなく、実際に学校の外にフィールドワークをしながら実践も行っています。



【廃棄野菜を使った料理を考える】



【いじめ・差別を考える演劇】



【荒川の水質調査CODの測定】

主な取組②

女子のスラックス着用



上記の探究活動のうち、「ジェンダー平等を実現しよう」を探究している班の1つが、女子のスラックス着用についてアンケートを実施した結果を分析し、生徒会や学校に働きかけ、校則を改定し、女子のスラックス着用に結び付けました。

SDGsの探求をきっかけに具体的な変革につながった事例であり、取組の様子は新聞にも掲載されました。



【校長室で要望を伝える様子】



【新聞掲載写真】



【班で作成し、校内に配布したリーフレット】

会員と連携可能な強み

福島市内外の企業や病院、保育施設など、幅広い分野と生徒たちが協働して取り組むことができます。

会員と連携して取り組みたい課題

生徒のアイデアを外団体と共に取り組み、持続可能な社会に貢献したいと考えています。

〒960-8163 福島県福島市方木田字上原37番地

【HP】 https://fukushimanishi-h.fcs.ed.jp/HOME_5a7d4c2bbfb8b

【TEL】 024-546-3391

【MAIL】 miyamoto.hideo@fcs.ed.jp (担当：宮本)





福島市

主な活動場所：福島県福島市



主な取組①

食品ロス削減マッチングサービス「ふくしまタベスケ」

「ふくしまタベスケ」は、福島市内のお店（協力店）と消費者（ユーザー）とを食品ロス削減をテーマにつなぐ、令和5年9月に開始した県内初のマッチングサービスです。ユーザー登録すると、協力店が出品する消費期限が近い商品等をお得に購入することができ、食品ロス削減にも貢献します。協力店側も売り上げ向上やごみ処理費用の削減等のメリットがあり、お店のPRにもつながります。

スマートフォン、パソコン等で簡単に登録ができ、手数料も無料です。お財布にも環境にもやさしいこのサービスをぜひご利用ください！

●利用実績（R5.10.17時点）

ユーザー数：1,899人
協力店舗数：8店舗
削減量：68,320グラム

●ふくしまタベスケURL（福島市HP）

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/gomigenryou/kurashi/tabesuke/001.html>



【ふくしまタベスケのサイト】



【出品イメージ】



【実店舗での販売の様子】

主な取組②

MOMORIN（ももりん）シェアサイクル ～お好きなサイクルポートで乗り捨てOK!～



福島市内中心市街地に設置されたサイクルポートであれば、24時間、どこからでも自転車のレンタル・返却ができるサービスです。移動手段として自転車を活用することで、中心市街地の回遊性向上や地域・観光の活性化につながり、また、温室効果ガス削減や健康増進等のメリットもあります。令和5年7月にはサイクルポートを新たに3箇所追加し、計18箇所となり、更に使いやすくなりました。スマートフォンの専用アプリを利用して簡単に借りることができますのでぜひご利用ください！

●利用実績（サービス開始R3.4月～R5.9月）
利用件数：延べ49,922回

●MOMORINシェアサイクルURL（福島市HP）

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/koutsuu-shisetsu/sharecycle.html>



【MOMORINシェアサイクル】



【福島駅東口サイクルポート】

詳しくはこちら！



【ホームページQR】

会員と連携可能な強み

目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を全ての施策の共通目標とし、「経済・社会・環境」に関する取組を幅広く展開しています。

会員と連携して取り組みたい課題

「第6次福島市総合計画まちづくり基本ビジョン」における各種施策をベースとし、本市の課題解決を図りながら、SDGsにも貢献できる取組について連携して進めたいと考えています。

〒968-0421 福島県福島市五老内町3番1号

【HP】<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/index.html>

【TEL】024-525-3788

【MAIL】seichou@mail.city.fukushima.fukushima.jp（担当：佐藤）





福島市子ども食堂NET

主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

子ども食堂の運営支援



福島市の子ども食堂において、様々な課題解決や人材育成を実施し、ネットワークの強化を行うことで、横のつながりで子ども食堂を支え、様々な支援をつなげる仕組みを構築し、持続可能な子ども食堂を生み出していきます。



主な取組②

フードドライブ



ご家庭で余っている食品を持ち寄って必要としている人に届けるフードドライブでは、集まった食品をネットワークに加盟している子ども食堂を中心とした加盟団体にお届けしています。企業や大学の協力もあり、多くの団体と連携しながらフードロス削減、子ども支援に寄与することができました。



会員と連携可能な強み

子ども食堂をプラットフォームとして、食材支援やボランティアでの協力を通じ、繋がりの中で子どもたちを支える地域を生み出していきたいです。

会員と連携して取り組みたい課題

ひとり親家庭への支援や様々な課題を抱える子どもたちの支援。

〒960-8021 福島県福島市霞町9-18

【H P】 <https://fukushimaibasyo.beans-fukushima.or.jp/network/>

【TEL】 080-4184-9438

【MAIL】 d-etou@beans-fukushima.or.jp (担当：江藤)





株式会社 福島タネセンター

主な活動場所：福島県須賀川市

主な取組①

スマート農業技術の確立による生産性の大幅向上と農業の魅力発信

- ・IT・DXを使いながら、通常ではできない高生産性を達成させます。
- ・マニュアル化が容易で、新規参入者や異業種参入でも農業で収益性を十分確立できます。
- ・できる限り不確定要素を排除することにより、安定した収益性を確保できます。
- ・地域経済において、農業を発展産業にできます。
- ・再生可能エネルギーだけで独立した生産基盤を作れます。
- ・ロボット・自動化の開発



主な取組②

上記技術を利用することにより、農業事業をソーシャルビジネス化

- ・若いお母さんや、障害者、社会的弱者などの雇用機会を作ることができます。
- ・研修制度を利用しながら、地域の農業技術の発展につなげられます。
- ・林業との取組（コラボ）事業を推進します。



会員と連携可能な強み

上記の目標はすでにある程度進んでおり、今後他の分野とのコラボレーションにより、より大きな社会価値の創出ができると考えます。

会員と連携して取り組みたい課題

工業団地と農業団地（最新の環境制御型植物工場）の併設により、工業団地で廃棄される熱や二酸化炭素を農業団地で消費でき、且つ高齢化社会の中で雇用の維持につながるような取り組みを提案できないか？と考えています。





福島防水株式会社

主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

全社員の健康維持と能力開発向上



すべての社員の健康維持のため屋内禁煙を実施しています。また、自己啓発や能力開発に対する金銭的、時間的支援を行い、資格取得意欲、能力開発意欲を高め、達成感を実感することで働きがいを感じてもらい、生産性向上につなげています。

屋内禁煙



電帳法・インボイス講習



防水施工技能士資格取得助成



安全運転講習



主な取組②

社業を通し持続可能な社会を実現



社業の防水工事で、高い技術力とCO2排出量削減効果のある断熱・遮熱の工法で耐久性のある建築物を実現し、住み続けられるまちづくりに寄与する取組を行っています。

作業現場では高い施工技術力と高度な施工管理力で材料のムダをなくし、材料を削減することで原料製造～輸送～施工～廃棄までのCO2排出量削減に寄与することができます。

高い技術力でCO2排出量削減



廃棄物の分別・リサイクル



会員と連携可能な強み

・防水工事では施主から高い評価をいただき、信頼されています。建築物の新築、改修では防水工事はほぼ欠かせない作業であり、建築に係わるほとんどの職種との連携が可能です。

会員と連携して取り組みたい課題

・新築、改修工事において、屋根・壁の断熱・遮熱工法でCO2排出量削減に寄与していくとともに、防水、塗装、板金、左官業の会員と連携して全体の排出量削減に取り組んでいくことが課題です。

〒963-0547 福島県郡山市喜久田町卸二丁目26番地1

【H P】 <https://www.fukubou.co.jp/>

【TEL】 024-963-1230

【MAIL】 andou@fukubou.co.jp (担当：安藤)





株式会社福島放送

主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

スポーツとゴミ拾い



スポーツとゴミ拾いを組み合わせた「スポGOMI in 郡山」。2回目となる今年も郡山駅前で開催しました。当日は53チーム、211人が参加。45分間の競技で、66kg以上のゴミを回収。ゴミを拾ってきれいにするだけでなく、自分達が暮らす地域の魅力発見のきっかけにもなりました。



【スポGOMI in 郡山】



【66kg以上のゴミを回収】

主な取組②

高血圧予防に向けたキャンペーン



2021年度から福島県民の高血圧予防を目的とした「ふくしまの健康！応援キャンペーン～ウデをまくろう、ふくしま～」を展開。高血圧の予防や減塩の重要性を呼びかけています。また特別番組や啓発スポットの放送、夕方情報番組「シェア！」の料理コーナーでは減塩レシピを取り上げ、健康増進に向けた取り組みを行っています。



【減塩を呼びかける啓発スポット】



【ウデをまくろう セミナーの様子】

会員と連携可能な強み

テレビ番組やテレビCMを通して、情報を発信すること。





株式会社福島民報社

主な活動場所：福島県内全域



主な取組①

SDG s 関連情報の発信・啓もう

福島民報社は、国連の「SDGメディア・コンパクト」に加盟し、報道や各種事業を通じて持続可能な社会づくりに取り組んでいます。

メディアの特性を生かし、「SDG s 福島から未来へ」の連載や県内の学校、行政、企業、団体のSDG s 活動を積極的に取材し、情報発信しています。

また、人と人をつなぎ、情報を伝える地方紙の原点に立ち、新聞を教育や健康増進に生かす出前講座なども進め、SDG s を指針とした新たな社会活動の展開を目指しています。



【学校や団体の取り組みを伝える記事】【連載「SDG s 福島から未来へ」】



主な取組②

SDG s 関連イベントを開催



2022年9月24、25の両日、郡山市のビッグパレットふくしまで第1回目となる「ふくしまSDG s 博」を開催し、今年度は2024年1月20、21日の2日間「ふくしまSDG s 未来博」を開きます。行政、団体、学校、企業などの出展やステージイベントなどで楽しみながらSDG s を学ぶ機会を提供し、県民のSDG s への取り組みの気運をさらに高めます。



【2022年「ふくしまSDG s 博」を伝える記事】

主な取組③

他企業・団体との連携



福島民報社と福島放送（KFB）は「ふくしまみんなのSDG s」連携協定を締結しました。古里が直面している問題に向き合い続ける地方紙と放送局が、SDG s の理念を取り入れて協力することで、持続可能な福島を目指します。

連携の一環として、9月29日から3日間、郡山市で開かれた「KFBまつり」に福島民報社がブース出展し、SDG s への取り組みを来場者に呼び掛けました。



会員と連携可能な強み

人と人をつなぎ、情報を伝える地方紙の原点に立ち「ふくしまSDG s プロジェクト推進コンソーシアム」を立ち上げました。誰一人取り残さず、いつまでも笑顔が広がる福島を共に育てて参ります。

会員と連携して取り組みたい課題

1. 人が輝く福島（人づくり）
 2. 活力ある豊かな福島（産業づくり）
 3. 健やかで生きがいに満ちた福島（健康づくり）
 4. 助け合い共に歩む福島（SDG s 連携）
- 上記4本の柱で県民運動の輪を広げます。地域に軸足を置きながら、県人会などと連携し国外にも情報発信を行います。

〒960-8068 福島県福島市太田町13-17
【HP】 <https://www.minpo.jp/>
【TEL】 024-531-4161（担当：成田）
【MAIL】 narita@fukushima-minpo.co.jp





主な取組①

事業者としての取り組み推進／職場環境づくり

2023年8月、社独自の「みんゆうゼロカーボン宣言」を発表し、事業者として二酸化炭素（CO₂）排出量削減の目標を設定しました。

県の「見える化」ツールを活用し、2050年までに電気、ガス、水道について年平均5%のCO₂削減を目標に掲げました。

また、環境省の国民運動「デコ活」への参加、仕事と子育ての両立を目指した「くるみん認定」、多様な人材の活躍による人権意識の向上など事業者としての取り組みを進めています。

さらに、SDGsの取り組みについて考える社内組織を再編しました。社員参加のゴミ拾いをはじめ、社内の「ゴミの分別化」「会議資料のペーパーレス化」など、紙面、事業による情報発信だけでなく、社員一人ひとりが自分ごととして捉えることのできる会社を目指しています。

福島民友新聞社は1日、県が掲げる脱炭素社会の実現に向けて「みんゆうゼロカーボン宣言」をします。新聞社として、環境関連の情報を発信し、社会の意識向上と啓発につなげます。事業者としては、二酸化炭素（CO₂）の排出量削減に取り組む、地球温暖化に対する社会的責任を果たしていきます。

情報発信、CO₂削減を推進

量削減を目標としました。すでに本社の照明器具の発光ダイオード（LED）化をはじめ、社内文書のペーパーレス化、クールビズの推進などに取り組んでいます。6月に設立された県のふくしまカーボンニュートラル実現会議の構成団体として、「ふくしまゼロカーボン宣言」事業にも参加しました。持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた国連の「SDGメディアコンパクト」や、環境省の「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動（デコ活）」にも加わり、歩みを進めます。

みんゆうゼロカーボン宣言

【2023年8月1日付 福島民友紙面
みんゆうゼロカーボン宣言】

主な取組②

報道や事業を通して県民とともに持続可能な社会の実現を目指す



新聞業の報道、営業、事業において、「誰ひとり取り残さない社会実現」というSDGsの理念を県民と共有し、解決に向けて行動に移していくことを目指しています。

企画ワッペン「子どもに未来を」「健康長寿」「プラスチック危機」で関連記事を目立つよう工夫し、紙面を通じて問題提起や啓発に取り組んでいます。本紙「ジュニア情報局」や出前講座「まなぶん」など授業で活用できるコンテンツもそろえ、将来の福島を担う人材育成を応援しています。

事業では「うつくしま・みずウオーク」や「サンシャインマラソン」などを展開し、環境共生と健康を考える機会を提供しています。



【うつくしま・みずウオーク】



【SDGメディアコンパクト加盟】

会員と連携可能な強み

健康をテーマに福島医大と連携協定を締結しているほか、各種活動で行政・教育機関、企業、民間団体などと幅広く連携しています。

会員と連携して取り組みたい課題

NIE、NIBでSDGsの学び、共有の機会を作るなどして次世代を担う人材の育成に連携して取り組みたい。





福浜大一建設株式会社

主な活動場所：福島県いわき市・三春町

主な取組①

ICTを活用した施工管理



当社ではICT機器を活用した施工管理を行っています。ICT建機を利用した測量や、ドローンを使用した進捗数量の確認を行っています。また、施工した個所を3Dレーザースキャナで測量し、そのデータを3Dソフトで読み込み解析をして出来形・品質管理をしています。

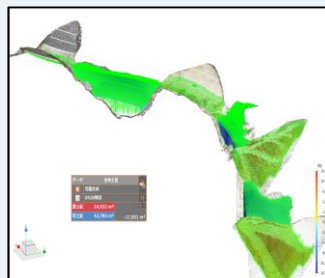
今後もICT技術を積極的に導入し、安全性・性能性・環境性の向上を目指します。



〈ICT建機を利用した施工状況〉



〈ドローンを使用した進捗数量の確認状況〉



〈3Dソフトによる点群データ解析と出来形品質の評価〉

福島大一建設株式会社 代表取締役 社長 森 様	
福島県いわき建設事務所	
ICT活用工事実施証明書	
令和2年12月15日付けで発給した下記工事について、ICT活用工事の実施を証明する。	
工事番号	第20-41380-0205号
工事名	道路幅員より整備(河原)工事(舗装)
路線(河川・施設)名	国道399号 いわき市小名浜町上小名浜内倉敷内
竣工年度月	令和 4年 3月 14日

〈ICT活用工事実施証明書〉

主な取組②

CO2排出量の削減



本社および各工事現場にてCO2排出量削減に取り組んでいます。

三春ダム施設現場では、草刈機を使用せず、動物を活用したエコ除草を行っています。現場付近にある牧場よりヤギやポニーをレンタルし、動物に草を食べてもらうことで除草作業を行っています。

また、各工事現場事務所と本社屋の屋上にソーラーパネルを設置し、太陽光発電を行い、電力の一部を太陽光で賄っています。

※当社ではCO2排出量46%削減（2021年度比）を目指し、取り組みを進めています。



〈エコ除草の様子（ヤギ）〉



〈エコ除草の様子（ポニー）〉



〈工事現場事務所へのソーラーパネル設置〉



〈太陽光発電の様子〉





富士工業株式会社

主な活動場所：福島県西白河郡中島村

主な取組①

消費電力量削減



電力消費量削減を計画的に進めており、2022年度はEHPの高性能機種の切り替え、照明器具のLEDへの変更を行い、2023年も引き続き実施しておりますが、新たに太陽光パネルの設置やEV車を導入しました。

災害時に対応するためのV2Hの導入など取り組みを追加しています。



主な取組②

CSR活動



中島村全村一斉クリーンアップ事業に参画し中島村童里夢公園の清掃活動や猪苗代湖クリーンアクション2023の猪苗代湖サイクリングロード沿いの清掃活動に取り組みました。

社会福祉協議会の要請を受けて「いわき市豪雨災害支援」によるいわき市災害復旧のボランティア活動を行いました。コミュニティブリッジ福島のフードバンクボランティアに参加しました。



会員と連携可能な強み

- ・レンジフードによる一般家庭や事務所に於ける節水やエネルギーロスの削減
- ・食品ロスの削減と福島県産農産物のPRを目的に弊社物流網を使用し神奈川県を中心とした地域のフードバンクへの寄付

会員と連携して取り組みたい課題

- ・弊社敷地内のエネルギーロスや節水についての取り組み
- ・CO2の削減を進める上での再生可能エネルギーへの切り替え
- ・ボランティア活動による水環境や森林保全のお手伝い





主な取組①

地域美化活動



いわき市で行っている「ボランティア清掃活動の支援制度」、『クリーン応援隊』に参加し、会社周辺の清掃活動をしています。



【クリーン応援隊集合写真】



【クリーン応援隊活動の様子】

主な取組②

使用済み切手の回収活動



社内で回収した使用済み切手を、社会福祉法人いわき市社会福祉協議会様へ寄付致しました。

換金されたお金は、福祉施設の建設資金や障がい者のための社会啓発活動などの福祉推進に使われます。



【使用済み切手】





主な取組①

SDG s セミナー

SDG s の取り組みを広めるため、弊社社員が講師となり無料でセミナーを開催しています。

【SDG s セミナーの様子】



主な取組②

防災・減災の取り組み



弊社で取り扱っている損害保険の中には、自然災害などで保険金をお支払いする商品もあることから、これまで保険金の支払いを通じて蓄積された知見を元に、防災・減災に関わる施策の展示やセミナー等を行っています。

【防災・減災に関するセミナーの様子】



【県内イベントでの防災・減災に関わる施策展示の様子】



会員と連携可能な強み

弊社の保険・金融サービス事業は、安全・安心な社会の提供に資するという点でSDG s と親和性の高い商品と考へており、事業を推進することがお客さまや地域のSDG s 推進をサポートしていくことに繋がると考えています。

また、事業を通じて蓄えた事故や自然災害に関わる知見をセミナーや個別のコンサルティングとして提供することで、より安全・安心な社会の形成に寄与できることが可能と考えています。

会員と連携して取り組みたい課題

地域のSDG s 推進のために、弊社の知見やサービスを積極的に提供していきたいと考えています。特に、SDG s を推進する企業・団体の皆さまへ支援を行いたいと考えており、従業員向けセミナーや各種取り組みへの個別支援、保険・金融サービスを活用したソリューションの提供に取り組みたいです。





明治安田生命保険相互会社 郡山支社

主な活動場所：福島県郡山市・福島市等 16 営業拠点所在自治体を
中心とした市町村

主な取組①

健康寿命の延伸



健康増進型商品・サービスや運動機会の提供等を通じ、県民の健康増進をサポートしています。
ビッグパレットでの「ふくしまSDGs博」において健康増進イベント「ベジチェック」を実施し、
「一日350グラムの野菜摂取」が推奨されていることを紹介しました。

Jリーグ・JLPGAとの協働によりサッカーやゴルフを通してイベントなど運動機会を提供、県民の健康増進に協力しました。



(Jリーグ試合前の健活体操の様子)



(ゴルフレッスンの様子)

(SDGs博での健康チェックイベントの様子)

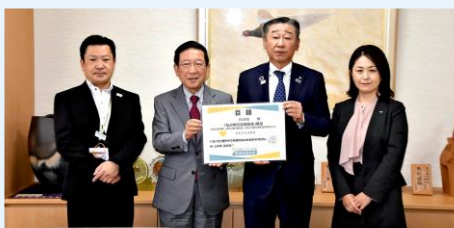
主な取組②

地方創生の推進



県内各自治体との連携協定をベースに地域の橋渡し役として「社会的つながり」を提供し、より多くの県民と各地域の資源・コミュニティをつなげることで「地方創生の推進」に貢献しています。

県内当社所在自治体・協定締結済自治体中心に当社全国従業員による募金「私の地元応援募金」を実施し、日本赤十字社と協働で福島ユナイテッドFC試合会場での献血協力、県内各地の公民館にて出前講座提供と健康チェックを行っています。



(私の地元応援募金贈呈の様子)



(シャレン！で献血の様子)



(公民館出前講座とベジチェックの様子)

会員と連携可能な強み

福島県下2支社総勢800名による、足を使った情報
伝達・発信活動や、昨今コロナ禍環境下も踏まえたL I
N E等のSNSを使用した情報発信

会員と連携して取り組みたい課題

健康測定機材を使用した、健康に対する意識醸成測定
会イベントの会員企業等従業員向けイベントやセミナーの
実施

〒963-8004 福島県郡山市中町10-10メルブ郡山2F

【HP】<https://www.meijiyasuda.co.jp/>

【TEL】024-923-2050【MAIL】yu1-wada@meijiyasuda.co.jp (担当：和田)





株式会社諸井緑樹園

主な活動場所：福島県南相馬市（他相双管内）

主な取組①

環境保全への取り組みについて



①従来であれば一般廃棄物として処分する支障木や危険木と判断された枝葉を、生花部で丁寧に下処理し、アレンジメントや花束の花材としてサービス使用しています。

②太幹部（樹種による）は近年流行している薪ストーブを利用されている方へ無償で提供しています。（時期は不定期、使用者引き取り限定です。）

③従来であれば混合油をエネルギーとして使用する芝刈作業の省力化と、カーボンニュートラルのために自家発電をエネルギーとするロボット芝刈機を導入しました。



花材として再利用



薪の無償提供



自家発電 太陽光パネル



ロボット芝刈機

主な取組②

労働環境の整備と人権尊重 及び地域貢献について



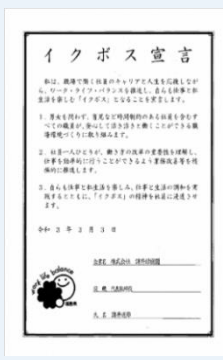
①近年は特に夏の暑さが長いので、働く人に少しでも快適に過ごせるよう、シャワー室を設置しました。

②イクボス宣言の基、従業員のワーク・ライフ・バランスを推進しています。
育休及び産後パパ育休の制度を活用し、私生活を応援します。

③学校のプール清掃を応援しています。
学校の教諭、PTAだけでは重労働なプール清掃を、自社の所有している高圧洗浄機を使用し、人手不足を補います。



シャワー室



イクボス宣言



プール清掃

会員と連携可能な強み

・「緑と花」を通し、都市と人間の居住地を心地よく持続可能な取り組みで連携できます。

会員と連携して取り組みたい課題

・SDGsの啓蒙活動を通し、働きがいのある仕事、企業、まちづくり等を連携し取り組みたい。

〒975-0003 福島県南相馬市原町区栄町一丁目15番地

【HP】 <https://www.hanamoroi.com>

【TEL】 0244-22-8766 【MAIL】 moroi-pc@xpost.plala.or.jp（担当：諸井）





主な取組

水素燃料電池トラックの活用

・2023年8月から水素で発電する燃料電池（FC）小型トラックを導入し、工事現場への資材・機材の運搬等で使用開始。
（災害時等にはトラックの外部給電機能を非常電源として活用）
排気ガスによるCO2を排出しないトラックを工事に利用することでCO2を削減し、2050年カーボンニュートラル社会の実現へチャレンジしています。

※福島県とトヨタ自動車㈱で行っている水素活用の社会実装（「水素のある暮らし」の実装モデル）に向けた実証実験への参画です。



会員と連携して取り組みたい課題

・他社のSDGs取組を知りたい。自社で取り組み、改善できる内容があれば、取り込んでいきたいです。





株式会社ユニフォームネット

主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

使用済みユニフォーム再資源化プロジェクト推進

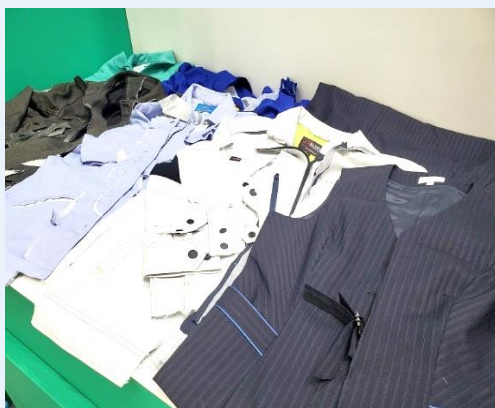
12 つくる責任
つかう責任



企業用ユニフォームの新規買い替えの際に出る不要となった旧ユニフォームを回収し、適切なリサイクル処理ののちに再資源化、新たな製品の原料として活用する「ReBaton（リバトン）SUSTAINABLE PROJECT」を企画し、推進しています。

企業用ユニフォームを販売している会社として、ユニフォームを使用した「その後」までサポート致します。

ReBaton[®]
SUSTAINABLE PROJECT
Provided by UNIFORM-NET Co., Ltd.



主な取組②

リサイクル（アップサイクル）に関する外部サービスへの協力参加

15 後の世へも
つたす



本社にて使用済コンタクトレンズケースや不要なコピー用紙の回収を行い、それぞれを外部のリサイクル（アップサイクル）サービスに提供しています。

コピー用紙については回収前に裏面も再利用するなど資源を無駄にしないよう心掛けています。

※コピー用紙回収→山陽製紙株式会社のPELP！を導入

※コンタクトレンズケース→HOYA株式会社のアイシティecoプロジェクトに協力



〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2丁目4番5号 オオタニビル4F

【H P】<https://www.uniform-net.jp/>

【TEL】03-5207-3191

【MAIL】info@uniform-net.jp (担当：高橋)





株式会社ヨークベニマル

主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

店頭における資源物回収

店舗店頭にて、食品トレー・牛乳パックを全店で、ペットボトル・古紙・段ボールを一部店舗を除くほぼ全店で回収しております。回収したトレーは再生トレーへ、回収したペットボトルは再生ペットボトルやオリジナルブランド「セブンプレミアム」のパッケージにリサイクルして、再度店頭に商品として並んでいます。

2022年度回収実績(福島県内店舗)は、ペットボトル1,411 t、古紙・段ボール12,721 tです。



12 つくも責任
つくり責任



主な取組②

子ども食堂への寄附

福島県内の子ども食堂に、福島県を通じて定期的に米やインスタント麺を寄附しております。

また、惣菜・パンを製造している工場で発生した規格外品(品質に問題はないが形崩れのあるもの等)を無償で子ども食堂へ寄附しております。



1 食料を
なくそう



主な取組③

オンサイト太陽光発電設備設置

福島県内には、12店舗に設置しており、2022年度発電量は、1,862千kwh・908t-CO2削減です。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



主な取組④

CO2フリー電力の調達

店舗で使用する電気の一部をCO2フリーの電気から調達しています。

福島県内では2022年度実績で10,377千kwh・5,064t-CO2削減しています。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

料金のご明細	金額	ご使用内訳
基本料金・常時		最大需要電力 573kW 力率 100%
力率割引額(再掲)		昼間有効 192,497kWh 昼間無効
基本料金割引額		
電力量料金計		使用量合計 254,717kWh
内訳・夏季平日料金		使用量 179,890kWh
内訳・休日料金		使用量 74,827kWh
燃料費等調整額		
CO2フリー料金		CO2フリー電力量 25,472kWh
料金合計		
消費税等相当額(再掲)		



福島県総合計画について

▷ 福島県総合計画について

あらゆる政策を網羅した県の行政運営上の最上位計画であり、県の目指す方向性や施策を示す県づくりの基本的な指針です。目指す将来の姿をSDGsの視点でも描いています。

▷ 総合計画とSDGs

本県は、震災・原発事故という未曾有の複合災害からの復興の取組と、急激な人口減少などの全国共通の課題への取組を同時に進める必要があります。

本県が目指す将来の姿の実現に向けて、これらの課題を解決していく取組は、持続可能な社会の実現を目指すSDGsの取組と方向性が一致しています。

計画では、世界の共通言語であるSDGsの視点を 取り入れ、福島県に心を寄せる人々との連携・協働を 深めながら、福島県の復興・創生を着実に前に進め、「持続可能で豊かなふくしま」の実現を目指しています。



▷ 詳しくは県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015b/comprehensiveplan2022-2030.html>

プラットフォーム専用ホームページ・公式SNS

▶ プラットフォーム専用ホームページ

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/sdgs-pf/>

▶ 公式SNS



<Facebook>

※アカウント名「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」で検索ください。



<Instagram>

※アカウントID「@fukushima_sdgs_pf」で検索ください。



<LINE>

※公式アカウント検索欄にて、アカウント名「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」で検索ください。

皆様からのフォロー・お友達登録
お待ちしております！



ふくしま応援！『ペコ太郎』

その他

▶ ふくしま復興情報ポータルサイト

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal>



▶ 東日本大震災・原子力災害 10年の記録

<https://fukushima-10years-archives.jp/>



▶ 復興・再生のあゆみ（復興関連冊子）

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-fukkoukeikaku1151.html>



▶ 「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」

<https://jitsugensuru-fukushima.jp/>



ふくしまSDGs推進プラットフォーム事務局：
福島県 企画調整部 復興・総合計画課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
Tel : 024-521-7109 Mail : sougoukeikaku@pref.fukushima.lg.jp